



クレアンは「CSR推進」と「CSR報告書企画制作」を一体で支援します

[CSR報告書サービス](#)[CSRコンサルティングサービス](#)[取引先実績](#)[企業情報](#)[お問合せ](#)現在位置：[ホーム](#) > サステナビリティレポート[サステナビリティレポート](#)[理念とビジョン](#)[マネジメント](#)[経済性報告](#)[社会性報告](#)[環境報告](#)[GRI内容索引](#)

理念とビジョン

クレアンの一人ひとりがどのような考えを持って仕事に臨んでいるのか。ここでは、私たちが大切にしている基本的な考え方、マインドについて説明します。

[トップコミットメント](#)[企業理念](#)[2020年ビジョン](#)[クレアンバリュー](#)[グローバル・コンパクト](#)[私たちをとりまくステークホルダー](#)[▲ このページの先頭へ戻る](#)

お問合せフォーム

無料相談、お問合せ、資料請求は
こちらからお願いします。

マネジメント

ここでは、「サステナブルな社会を実現する」というビジョン達成のため、クレアンが会社の運営をどのように進めているのかについて説明します。

[CSRマネジメント](#)[目標と実績](#)[リスクマネジメント・コンプライアンス](#)[機密情報保護方針](#)[個人情報保護方針](#)[▲ このページの先頭へ戻る](#)

経済性報告

クレアンは、社会を持続可能にしていくことをミッションに事業を行っています。私たちが企業として存続し、ミッションを果たしていくためには、社会から必要とされ、事業から適正な利益を継続的に上げていくことが必要だと考えています。

[財務情報](#)[ステークホルダーとの経済的関係](#)[▲ このページの先頭へ戻る](#)

社会性報告

ここではクレアンがさまざまなステークホルダー（社員、お客様、取引先、社会）との関わり

り合いのなかで取り組みを進めている活動について報告します。

[社員との関わり](#)

[人が活きる職場環境づくり](#)

[社員満足度調査](#)

[お客様との関わり](#)

[顧客満足度調査の実施](#)

[ステークホルダー・ダイアロ](#)

[グ2008](#)

[取引先との関わり](#)

[ステークホルダー・メッ](#)

[セージ](#)

[社会との関わり](#)

[企業市民活動](#)

▲ [このページの先頭へ戻る](#)

環境報告

もともと環境意識の高い社員が集まっているクレアンですが、より環境意識を高めるために、身の回りのことからきちんと活動に取り組んでいます。

[環境マネジメント](#)

[CO2排出量の抑制](#)

[グリーン購入の推進](#)

[OA用紙使用量の削減](#)

[廃棄物の発生抑制](#)

▲ [このページの先頭へ戻る](#)

GRI内容索引

[GRI内容索引](#)

▲ [このページの先頭へ戻る](#)

[トップページ](#) | [CSR報告書サービス](#) | [CSRコンサルティングサービス](#) | [企業情報](#) | [Changing the Future](#) | [サステナビリティレポート](#) |
[CSR推進サポーター](#) | [無料相談・お問合せ](#) | [アクセス](#) | [採用情報](#) | [サイトマップ](#) |

Copyright Cre-en Inc,



クレアンは「CSR推進」と「CSR報告書企画制作」を一体で支援します

CSR報告書サービス

CSRコンサルティングサービス

取引先実績

企業情報

お問合せ

現在位置：[ホーム](#) > [サステナビリティレポート](#) > 【理念とビジョン】 トップコミットメント

トップコミットメント

みんなが幸せだと
感じられる社会創りのために

代表取締役 荻田綾子



GNP（経済）からGNH（幸せと笑顔）の指標へ

「今の状況は幸せですか？」みなさんは、この問いかけにどう答えますか？

実は、残念ながら、日本では16～34歳で「はい」と答えた人はたったの8%。8～15歳で幸せと答えた子どもたちは13%だけでした。これは、世界14カ国で計5,200名対象に行なった幸福に関するMTVの調査結果です。対象国は、アルゼンチン、ブラジル、中国、デンマーク、フランス、ドイツ、インド、インドネシア、日本、メキシコ、南アフリカ、スウェーデン、イギリス、アメリカ。ちなみに平均は16～34歳が43%、8～15歳が57%なので、日本は突出して低い数字というのがわかります。

また、イギリスの社会心理学者エドリアン・ホワイト氏の分析による178カ国の「GNH（国民の幸福度）ランキング2006」では、1位デンマーク、2位スイス、3位オーストリア、4位アイスランド、5位バハマ、6位フィンランド、7位スウェーデン、8位ブータン。日本はというと、なんと90位。ちなみにアメリカは23位で、中国は82位でした。これらのデータを見るまでもなく、すでに今の日本社会が早急に見直しを迫られていることを感じている人も少なくないでしょう。

先ほども出てきた「GNH」という言葉を最近、耳にすることが多くなった気がします。もともとブータンの第4代国王が提唱した「GNH（Gross National Happiness）」はGNP（＝Gross National Product国内総生産）よりも大切だ。」という考え方からで、今のグローバル化の影の問題や気候変動をはじめとする様々な環境問題を解く鍵が、ここにありそうです。日本が、今後進むべき方向は、単なるGNPの順位の追求ではなく、人と人、人と自然のつながりを大切にしたい心豊かな社会なのではないでしょうか。

故ロバート・ケネディが遺した言葉にも、すでに40年前からこのジレンマがありました。

「アメリカは世界一のGNPを誇っているが、その中には、タバコや酒や薬、交通事故や犯罪や環境汚染や環境破壊にかかわる一切が含まれている。戦争で使われるナバーム弾も、核弾頭も、警察の装甲車もライフルもナイフも、子どもたちにおもちゃを売るために暴力を礼賛するテレビ番組も。子どもたちの健康や教育の質の高さ、遊びの楽しさはGNPに含まれない。詩の美しさも、市民の知恵も、勇気も、誠実さも、慈悲深さも…。要するに国の富を測るはずのGNPからは、私たちの生きがいのすべてがすっぽり抜け落ちている」

経済活動量を単純に数値化しただけのGNPには、環境悪化や病気や災害など経済的外部効果

サステナビリティレポート

理念とビジョン

トップコミットメント

企業理念

2020年ビジョン

クレアンバリュー

グローバル・コンパクト

私たちをとりまくステークホルダー

マネジメント

経済性報告

社会性報告

環境報告

GRI内容索引



お問合せフォーム

無料相談、お問合せ、資料請求はこちらからお願いします。

も含まれ、生活の質や愛情など、お金に換算できない価値はまったく反映できないわけです。確かに高度経済成長をとげてきた日本は物質的にはとても豊かになりましたが、どこかで大切なものを置いてきぼりにして、幸せと違う方向に真逆さまに落ちているようです。

ブータンのGNHは、「持続可能で公平な社会開発」「自然環境の保護」「有形、無形文化財の保護」「良い統治」という4つの柱を中心に精神的な豊かさ、つまり幸福を目指すという考え方ですが、この影響を受けてか、最近ではサルコジ仏大統領がパリのソルボンヌ大学で演説し、「現在のGDPは実際の経済発展レベルを示せないごまかしの指標にすぎず、新たな道具が必要だ」と主張したそうです。欧州連合（EU）でも「2010年中に新たな経済発展度測定指標を出したい」という発表がありました。金融危機後の世界で新たな価値の議論が急進している背景から、日本でも、持続可能な社会を創る新しい幸福指数、言い換えれば、「笑顔の指標」、「心の豊かさの指標」が必要になってきているのではないのでしょうか。

明るい未来のシナリオを描くためにもCSRが必要

もし、今の延長線上ならば、いったいどんな未来になるのでしょうか。家族のつながりや企業内でのコミュニケーションも希薄となり、都会では地域社会も崩壊しつつあります。つながりのない社会の中、不安を抱えて生きる人が増え続けている現状は否めません。環境問題もこのままでは悪化の一途をたどり、近い将来、日本でも食料危機や水不足に遭遇するかもしれません。さらに、格差の問題や増え続ける医療費や介護費用など、社会不安は山積みです。どう考えても、未来社会の豊かな暮らしを子どもたちに約束できないはずで

もちろん、今から私たちの行動を変えることができれば、未来は変えられるはずです。今までは違う考え方で、社会システム、経済システムを見直し、心豊かな社会につながる選択をすれば、きっと明るい未来のシナリオが描けると私は信じています。2050年の時代に生きる子どもたちが近代史を学ぶときには、こんな内容が伝えられるかもしれません。「2010年を境にして、多くの人々が社会の抱える問題を直視し、解決に向けた行動を市民と企業が起こし始めた。私たち人類は破滅の道を回避し、共生の道を選択したのである。そして、そのキーワードになったのは、CSR（企業の社会的信頼）である。」と。

現在、国家以上に社会に対して大きな力を持っていると言われるグローバル企業が本格的にCSRに取り組み始めれば、事態を大きく改善することもでき、幸せな社会に方向転換できる可能性があります。それほど、大きな意味を持っているのがこのCSRという概念でしょう。

本業でCSRを進めるのが、本質的CSR

「CSRを本業で進めることが、わが社のCSRです」あるいは、「企業理念の実践がCSRです」という企業が増えてきました。CSRの考え方も少しずつ定着し、初期段階の守りのCSRを経て、自社の価値創造のレベルにCSRの質も変化してきました。最終的に企業が目指すべき本質的CSRは、まさに「CSRを本業で進めること」ですが、この意味あいはいかなり深く、実現もなかなか容易ではありません。クレアン流に言い換えれば、「次世代にも持続可能な企業であり続けるために、今の本業が持続可能なビジネスモデルなのかを見極め、環境や社会への負荷を最小限にするとともに、人々の幸せにつながる商品やサービスを生み出す企業にシフトすること」ここでの重要なキーワードは、「サステナビリティ（持続可能性）」です。

GNPを追い求めた結果、私たちの経済社会は、すでに「地球の限界」、「成長の限界」

「人々の心の問題」に直面しています。けれども、きっと人間には、難問に挑戦する勇気と問題を解決する智慧や技術が備わっています。

私たち人間の共生意識を高めることで、「持続可能な社会」への転換を図る時期にきているとも言えるかもしれません。言い換えれば、一人ひとりの人間の集団である企業が、本業でその解決に向けて本気で取り組めば、幸せな未来に変えられるのです。その効果的な方法のひとつが「CSR」です。けれども、実際にはどれだけの企業が次世代のことを意識して事業活動を行っているのかというと、まだまだひと握りに過ぎません。多くの企業は、今日の売り上げや今期の利益を出さなければ競争に負けてしまうという状況の中で、自ずとそうした

意識は希薄になりがちです。けれども、未来への投資をしなければ、企業力も弱まり、人財も育たずに企業として存続できないことを経営層は十分わかっているはずです。

従来の財務重視の短期的視点だけではなく、中長期的な視点による戦略的アプローチが経営に求められてきています。[バックキャスティング経営](#)といわれる「未来からの発想法」は、これからの変化の大きい時代に向けて、未来シナリオやビジョン策定に有効です。プロセスとしては、例えば2020年～2050年の未来にこうなりたいというあるべき理想の企業の姿

（ゴール）を先に考え、そこを起点に今から何をすべきかのアクションプランを具体化していくという逆転の思考法です。先進的な海外企業の中では、こうしたバックキャスティングの発想を活用して中長期のビジョンを掲げるところも増えてきています。国内企業も2020年～2030年の中長期ビジョンや、さらに先の2050年の超長期ビジョンを策定し始め、ここ1～2年で30社近く増えました。策定した企業では、「2050年まで自社が存続することをトップが宣言した」ということも含め、社員のモチベーションも上がり、組織として活気づいているのが目に見えてわかります。企業は人で成り立っていますから、言い換えれば人財が生命線です。どのような企業を中長期的に目指すかの大きな方向性が決まれば、人財についても今後どのような人が必要なのかという採用戦略や教育研修の内容も決まってきます。なかでも未来思考ができる人財育成は重要になってくることでしょう。さらには、社会システムやビジネスモデルを変えていくようなイノベーションの方針も明確になってきています。これらは財務諸表には表れないものばかりですが、確実に将来の重要な企業価値につながってくるはずです。

企業と社会と地球のサステナビリティ（持続可能性）に向けて、本質的なCSRを進める時代になってきた今、クレアンに期待される役割がどんどん大きくなっていることを感じています。みんなが幸せだと感じられる社会創りのために、私たちも日々鋭意努力を重ね、本気で役割を果たしていきたいと考えています。

株式会社クレアン代表取締役
蘭田綾子

▲ [このページの先頭へ戻る](#)

[トップページ](#) | [CSR報告書サービス](#) | [CSRコンサルティングサービス](#) | [企業情報](#) | [Changing the Future](#) | [サステナビリティレポート](#) |
[CSR推進サポーター](#) | [無料相談・お問合せ](#) | [アクセス](#) | [採用情報](#) | [サイトマップ](#) |

Copyright Cre-en Inc,



クレアンは「CSR推進」と「CSR報告書企画制作」を一体で支援します

[CSR報告書サービス](#)[CSRコンサルティングサービス](#)[取引先実績](#)[企業情報](#)[お問合せ](#)現在位置：[ホーム](#) > [サステナビリティレポート](#) > 【理念とビジョン】企業理念

企業理念

私たちクレアンが存在する理由は何か。その答えを企業理念として制定しました。
私たちは、全社員の力を合わせて経済・環境・社会の調和ある発展に貢献します。

企業理念

私たちは笑顔があふれる地球の未来を創造します

経済方針

事業の発展により
安定した利益を確保し、
社会づくりに貢献します。

環境方針

「バランス」と「共生」
という地球と自然の原則を
守り、事業活動を通して、
意識の普及と向上を図ります。

社会方針

サステナブルな社会実現の
ためにすべてのステーク
ホルダーとベストの関係を
築きます。

[▲このページの先頭へ戻る](#)[サステナビリティレポート](#)[理念とビジョン](#)[トップコミットメント](#)[企業理念](#)[2020年ビジョン](#)[クレアンバリュー](#)[グローバル・コンパクト](#)[私たちをとりまくステークホルダー](#)[マネジメント](#)[経済性報告](#)[社会性報告](#)[環境報告](#)[GRI内容索引](#)

お問合せフォーム

無料相談、お問合せ、資料請求は
こちらからお願いします。

[トップページ](#) | [CSR報告書サービス](#) | [CSRコンサルティングサービス](#) | [企業情報](#) | [Changing the Future](#) | [サステナビリティレポート](#) |
[CSR推進サポーター](#) | [無料相談・お問合せ](#) | [アクセス](#) | [採用情報](#) | [サイトマップ](#) |

Copyright Cre-en Inc,



クレアンは「CSR推進」と「CSR報告書企画制作」を一体で支援します

[CSR報告書サービス](#)[CSRコンサルティングサービス](#)[取引先実績](#)[企業情報](#)[お問合せ](#)現在位置：[ホーム](#) > [サステナビリティレポート](#) > 【理念とビジョン】2020年ビジョン

2020年ビジョン

「こんな未来社会をつくりたい」。人々の共感・想いを集め、行動に結びつけていく力の源泉となる未来像、私たちはそれをビジョンと呼んでいます。

2020年ビジョンの策定

2002年、クレアンは、私たちが目指すゴール、サステナブルな社会のイメージを共有化するために、全社員のアイデアと知恵を結集してビジョンを策定しました。

2020年に向けて、事業を通じて地域、国という枠組みを越えた地球と人、人と人がつながるサステナブルな社会を実現します。

[▲このページの先頭へ戻る](#)

サステナビリティレポート

理念とビジョン

トップコミットメント

企業理念

2020年ビジョン

クレアンバリュー

グローバル・コンパクト

私たちをとりまくステークホルダー

マネジメント

経済性報告

社会性報告

環境報告

GRI内容索引

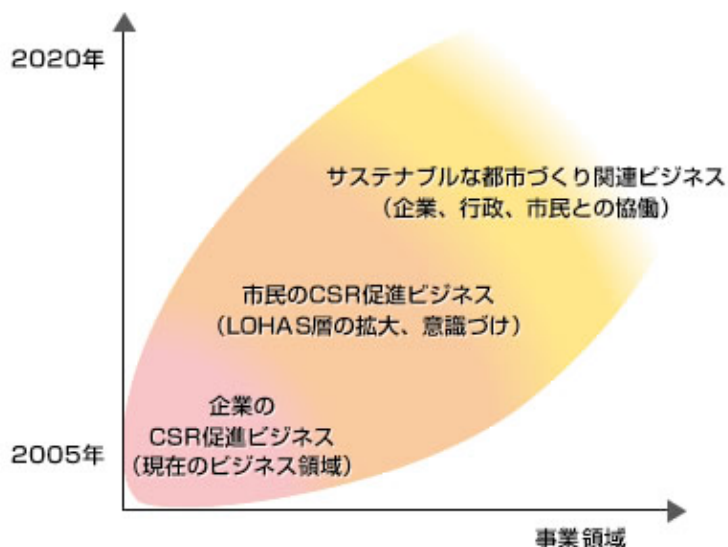


お問合せフォーム

無料相談、お問合せ、資料請求は
こちらからお願いします。

未来へのロードマップ

クレアンは、事業活動を通して2020年ビジョンにも掲げたサステナブルな社会を実現することをミッションとしています。そのためには企業、市民、政府それぞれのプレーヤーが問題意識を共有し、その解決のためにこれまでのやり方を変えて、あらゆる局面で新しいスタイルを確立して行かなければなりません。クレアンは2020年にサステナブルな社会を実現するため、企業、市民、政府に対して、働きかけ、つなぎ、協働していくためのビジネスを展開していきます。

[▲このページの先頭へ戻る](#)

[トップページ](#) | [CSR報告書サービス](#) | [CSRコンサルティングサービス](#) | [企業情報](#) | [Changing the Future](#) | [サステナビリティレポート](#) |
[CSR推進サポーター](#) | [無料相談・お問合せ](#) | [アクセス](#) | [採用情報](#) | [サイトマップ](#) |

Copyright Cre-en Inc,



クレアンは「CSR推進」と「CSR報告書企画制作」を一体で支援します

[CSR報告書サービス](#)[CSRコンサルティングサービス](#)[取引先実績](#)[企業情報](#)[お問合せ](#)現在位置：[ホーム](#) > [サステナビリティレポート](#) > 【理念とビジョン】クレアンバリュー

クレアンバリュー

サステナブルな社会を実現するための人財であるために、自分たちは「どうありたいか」。2010年をはじめるにあたり、クレアンではその羅針盤となる「クレアンバリュー」を策定しました。

毎週月曜日の朝礼では全員で唱和し、「クレアンバリュー」を共有しています。

クレアンバリュー

- I. サステナブルな社会実現への情熱と実行力を持つ
- II. 優れた人間性を示す
- III. クオリティ・イノベーションを追求する
- IV. チームワークを大切にする
- V. 信頼関係を創造する
- VI. グローバル・シチズンシップを発揮する
- VII. 組織力の最大化を図る

[▲ このページの先頭へ戻る](#)[サステナビリティレポート](#)[理念とビジョン](#)[トップコミットメント](#)[企業理念](#)[2020年ビジョン](#)[クレアンバリュー](#)[グローバル・コンパクト](#)[私たちをとりまくステークホルダー](#)[マネジメント](#)[経済性報告](#)[社会性報告](#)[環境報告](#)[GRI内容索引](#)

お問合せフォーム

無料相談、お問合せ、資料請求は
こちらからお願いします。

[トップページ](#) | [CSR報告書サービス](#) | [CSRコンサルティングサービス](#) | [企業情報](#) | [Changing the Future](#) | [サステナビリティレポート](#) |
[CSR推進サポーター](#) | [無料相談・お問合せ](#) | [アクセス](#) | [採用情報](#) | [サイトマップ](#) |

Copyright Cre-en Inc,



クレアンは「CSR推進」と「CSR報告書企画制作」を一体で支援します

[CSR報告書サービス](#)[CSRコンサルティングサービス](#)[取引先実績](#)[企業情報](#)[お問合せ](#)現在位置：[ホーム](#) > [サステナビリティレポート](#) > 【理念とビジョン】グローバルコンパクト

グローバル・コンパクト

クレアンは2007年、グローバル・コンパクトの趣旨に賛同し、日本で57番目の企業として署名しました。社会的影響力の大きい企業をクライアントとするクレアンは、お客様とともに、今後も継続してグローバル・コンパクトの精神を守っていきます。

株式会社クレアン代表取締役
蘭田綾子

グローバル・コンパクト

【人権】

原則1. 企業はその影響の及ぶ範囲内で国際的に宣言されている人権の擁護を支持し、尊重する。

原則2. 人権侵害に加担しない。

【労働】

原則3. 組合結成の自由と団体交渉の権利を実効あるものにする。

原則4. あらゆる形態の強制労働を排除する。

原則5. 児童労働を実効的に廃止する。

原則6. 雇用と職業に関する差別を撤廃する。

【環境】

原則7. 環境問題の予防的なアプローチを支持する。

原則8. 環境に関して一層の責任を担うためのイニシアチブをとる。

原則9. 環境にやさしい技術の開発と普及を促進する。

【腐敗防止】

原則10. 強要と賄賂を含むあらゆる形態の腐敗を防止するために取り組む。

[▲ このページの先頭へ戻る](#)

サステナビリティレポート

理念とビジョン

トップコミットメント

企業理念

2020年ビジョン

クレアンバリュー

グローバル・コンパクト

私たちをとりまくステークホルダー

マネジメント

経済性報告

社会性報告

環境報告

GRI内容索引



お問合せフォーム

無料相談、お問合せ、資料請求は
こちらからお願いします。[トップページ](#) | [CSR報告書サービス](#) | [CSRコンサルティングサービス](#) | [企業情報](#) | [Changing the Future](#) | [サステナビリティレポート](#) | [CSR推進サポーター](#) | [無料相談・お問合せ](#) | [アクセス](#) | [採用情報](#) | [サイトマップ](#)

Copyright Cre-en Inc,



クレアンは「CSR推進」と「CSR報告書企画制作」を一体で支援します

➡ CSR報告書サービス

➡ CSRコンサルティングサービス

➡ 取引先実績

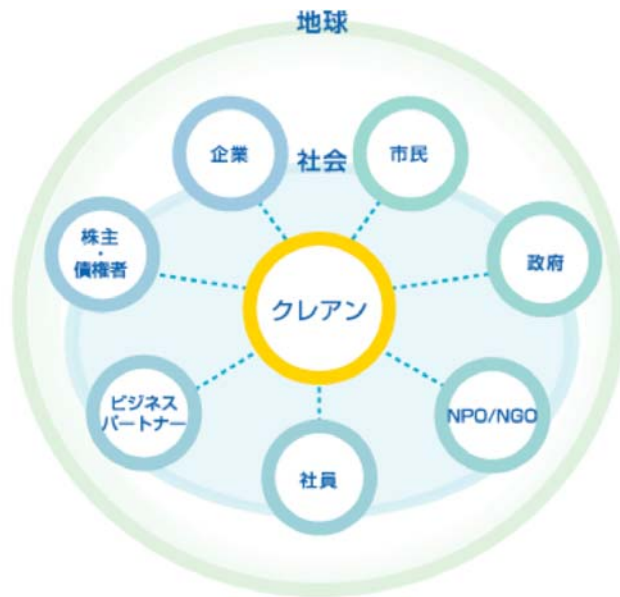
➡ 企業情報

➡ お問い合わせ

現在位置: [ホーム](#) > [サステナビリティレポート](#) > 【理念とビジョン】私たちをとりまくステークホルダー

■ 私たちをとりまくステークホルダー

私たちがビジネスを行うとき、たくさんの人々に支えられているとともに、たくさんの人々に影響を与えています。



【市民】

市民のサステナビリティへの意識向上がサステナブルな社会実現の鍵となります。そのため様々な機会を捉え、お互いに啓発し合っています。

【企業】

サステナブルな社会を実現するためのキープレイヤーです。問題意識を共有し、サステナブルな社会づくりに貢献する企業へと、共に転換を図っています。

【政府】

情報交換など協力を進めながら、共にサステナブルな社会実現を目指しています。

【株主・債権者】

私たちの理念やビジョンを理解してくださり、応援いただいています。

【NPO/NGO】

多様な価値観、問題意識を持った人々とネットワークを構築し、常に連携をとっています。

【ビジネスパートナー】

チームワークを大切に、一緒に質の高い仕事を追求しています。

【社員】

サステナブルな社会を実現するというビジョンの下に集まっています。

▲ [このページの先頭へ戻る](#)

サステナビリティレポート

理念とビジョン

トップコミットメント

企業理念

2020年ビジョン

クレアンバリュー

グローバル・コンパクト

私たちをとりまくステークホルダー

マネジメント

経済性報告

社会性報告

環境報告

GRI内容索引



お問い合わせフォーム

無料相談、お問合せ、資料請求は
こちらからお願いします。

[トップページ](#) | [CSR報告書サービス](#) | [CSRコンサルティングサービス](#) | [企業情報](#) | [Changing the Future](#) | [サステナビリティレポート](#) | [CSR推進サポーター](#) | [無料相談・お問合せ](#) | [アクセス](#) | [採用情報](#) | [サイトマップ](#)

Copyright Cre-en Inc.



クレアンは「CSR推進」と「CSR報告書企画制作」を一体で支援します

[CSR報告書サービス](#)[CSRコンサルティングサービス](#)[取引先実績](#)[企業情報](#)[お問合せ](#)現在位置：[ホーム](#) > [サステナビリティレポート](#) > 【マネジメント】CSRマネジメント

CSRマネジメント

すべてのステークホルダーから期待される企業であり続けるために、CSRマネジメント体制を築き、事業と経営を一体としたCSR活動を推進しています。

CSRマネジメントの実行

クレアンは事業の成長に伴い、組織が拡大していくなかで、提供する商品・サービスの品質管理をはじめ、コンプライアンスや人材の育成など、事業運営を組織としてシステムティックに進めるためのマネジメント体制を構築することが急務となりました。

2004年11月に、第1回ステークホルダーダイアログを開催し、クレアンに対するお客さまからの率直なご意見、ご要望をいただく機会を持ちました。これを一つの大きな契機として、ダイアログでいただいたご指摘と、経営会議における今後の経営の方向性に関する意見を集約し、CSR委員会を2005年1月1日付けで発足。その後2007年1月に、2つの分科会を新設し、全員参加型へ組織を改変した「CSR推進会議」へと体制を発展させ現在に至っています。

推進会議は、「本業」、「リスクマネジメント/コンプライアンス」、「品質」、「人材開発」、「ワークスタイル」、「環境」、「企業市民」、「社内コミュニケーション」の8つの分科会を持ち、それぞれ現状の経営課題の解決を目的とした改善目標を設定。その活動の進捗状況報告のため、全体会議を2カ月に1度のペースで開催しています。

各分科会では、全体会議に向けた準備会合をそれぞれ必要に応じて開催し、担当分野における情報共有と改善活動を日常的に進めています。各年度末の1月には、1年間の活動の振り返りと評価、そして次年度に向けた改善施策の提案と予算申請、分科会メンバーの交代および引継ぎが行われます。また、1年間の活動の結果は、サステナビリティ・レポートで情報開示をしています。

CSR推進のコンサルティング・サービスを提供する企業として、また、今後必要となってくるであろう中小企業におけるCSR活動推進の1つのモデルともなるよう、クレアンはCSR活動の推進を自ら実践しています。

クレアンCSR推進会議体制



サステナビリティレポート

マネジメント

CSRマネジメント

目標と実績

リスクマネジメント・コンプライアンス

機密情報保護方針

個人情報保護方針

理念とビジョン

経済性報告

社会性報告

環境報告

GRI内容索引



お問合せフォーム

無料相談、お問合せ、資料請求は
こちらからお願いします。

分科会

▲ [このページの先頭へ戻る](#)

[トップページ](#) | [CSR報告書サービス](#) | [CSRコンサルティングサービス](#) | [企業情報](#) | [Changing the Future](#) | [サステナビリティレポート](#) |
[CSR推進サポーター](#) | [無料相談・お問合せ](#) | [アクセス](#) | [採用情報](#) | [サイトマップ](#) |

Copyright Cre-en Inc,



クレアンは「CSR推進」と「CSR報告書企画制作」を一体で支援します

CSR報告書サービス

CSRコンサルティングサービス

取引先実績

企業情報

お問合せ

現在位置：[ホーム](#) > [サステナビリティレポート](#) > 【マネジメント】目標と実績

目標と実績

CSR活動の推進を実行あるものとするために、分科会ごとに中長期・短期の目標を設定し、P（計画）・D（実行）・C（評価）・A（改善）のマネジメントサイクルをまわしています。

リスクマネジメント・コンプライアンス

< 詳細ページ：[リスクマネジメント・コンプライアンス](#) >

法務リスク管理

2010年中期目標	機密・個人情報管理 知的財産権リスク管理 コンプライアンス教育の徹底 パートナー及びクライアントとの契約書のリスク管理チェック徹底 調達資源のリスク管理
2009年度目標	機密個人情報管理の基礎研修（新人研修） 著作権に関する基礎研修（新人研修） コンプライアンス研修（モラル・ハラスメント研修） 知的財産権取扱い研修（レポート、プレゼンほか） 紙調達材料（推薦可能な紙種類の提案確定） パートナーとの競業禁止義務サポート
2009年度実績	機密・個人情報管理の基礎研修（新人研修）2回実施 著作権に関する基礎研修（新人研修）2回実施 知的財産権取扱いは個別相談として対応。延べ6回
2010年度目標	機密・個人情報管理 知的財産権リスク管理 コンプライアンス教育の徹底 パートナー及びクライアントとの契約書のリスク管理チェック徹底

安全リスク管理

2010年中期目標	防災管理
2009年度目標	防災セットの配布確認とメンテナンス 防災訓練研修（シミュレーション研修と防災訓練）
2009年度実績	防災セットの配布確認 ビル全体の火災避難訓練（テナント代表参加）
2010年度目標	防災セットの配布確認 火災避難訓練参加

健康リスク管理

2010年中期目標	健康管理
-----------	------

サステナビリティレポート

マネジメント

CSRマネジメント

目標と実績

リスクマネジメント・コンプライアンス

機密情報保護方針

[個人情報保護方針](#)

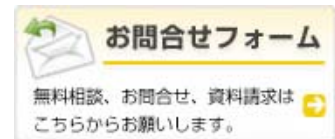
理念とビジョン

経済性報告

社会性報告

環境報告

GRI内容索引



2009年度目標	医師会依頼講演の実施、社員の健康意識啓発
2009年度実績	医師会による健康相談の実施
2010年度目標	医師会による健康相談の実施

▲ [このページの先頭へ戻る](#)

品質

< 詳細ページ: [お客様との関わり](#) >

< 詳細ページ: [取引先との関わり](#) >

顧客

2010年中期目標	業務の標準化推進 顧客満足度の向上
2009年度目標	業務マニュアルの継続的改善、社内周知 顧客満足度調査の実施・対策の検討 トラブル・クレーム・ヒヤリハット事例の収集（社内）
2009年度実績	マニュアルの改訂 CS調査：質問項目の見直し、実施 ヒヤリハット事例の収集共有
2010年度目標	業務マニュアルの継続的改訂 タイムリーなCS調査の実施と担当者へのフィードバック トラブル・クレーム・ヒヤリハット事例の収集

従業員

2010年中期目標	全従業員の知識および業務レベルの向上、維持、改善 各従業員における専門分野の能力開発
2009年度目標	役割別能力体系の整備 研修の実施
2009年度実績	取材研修実施 Web研修実施 GRI勉強会開催
2010年度目標	能力体系に沿った研修の実施

取引先

2010年中期目標	品質向上に向けた外部パートナーとの連携強化
2009年度目標	外部パートナー評価の継続的实施 外部パートナーとの意見交換会の実施 CSRに関する情報提供、セミナーの案内などによる意識啓発
2009年度実績	外部パートナー評価の実施 外部パートナーとの意見交換会を実施（東京11社、大阪5社） シンポジウムの案内を送付し意識向上・知識習得を啓発
2010年度目標	外部パートナー評価の継続的实施 外部パートナーとの意見交換会の実施

CSRに関する情報提供、セミナーの案内などによる意識啓発

▲ [このページの先頭へ戻る](#)

人財開発

2010年中期目標	クレアンバリューを共有し、企業理念および 2020年ビジョンを実現できる人づくり
2009年度目標	基礎研修制度の充実 人事評価制度の改定
2009年度実績	全社員対象の外部研修プログラムの導入 新人事評価制度の策定
2010年度目標	新入社員研修用教材の作成 新入社員研修の充実

▲ [このページの先頭へ戻る](#)

ワークスタイル

< 詳細ページ: [社員との関わり](#) >

勤務制度

2010年中期目標	柔軟な就業形態の導入
2009年度目標	週40時間フレックス制の精度向上 育児休業者への有効な情報提供方法を策定
2009年度実績	フレックス制：利用者がなく、検討未着手 休業者への情報提供：復職後の情報提供に利用できる文書保管制度を整備
2010年度目標	制度周知のための手引き書作成

休暇制度

2010年中期目標	休暇制度の充実
2009年度目標	有給休暇取得率向上を目指す
2009年度実績	有給休暇取得率（62％） 育児休業取得者（2名：内1名は男性） 子の看護休暇取得者（2名）
2010年度目標	有給休暇取得率向上

▲ [このページの先頭へ戻る](#)

環境

< 詳細ページ: [環境マネジメント](#) >

CO2排出量抑制

2010年中期目標	電力使用量 一人あたり 10%削減（2005年度比）
2009年度目標	一人あたり 2%削減（前年度比）
2009年度実績	一人あたり 12.3%増加（前年度比）
2010年度目標	一人あたり 10%削減（2005年度比）

グリーン購入推進

2010年中期目標	グリーン購入ガイドラインの策定と数値目標の設定、目標達成
2009年度目標	グリーン購入・調達ガイドライン策定
2009年度実績	グリーン商品の購入範囲を広げ、金額ベースでも、品目でも拡大。 ガイドライン策定により、クレアンの実態に合ったグリーン購入に関する方針策定を討議
2010年度目標	グリーン購入ガイドラインの策定と数値目標の設定、目標達成

OA用紙使用量削減

2010年中期目標	現状の業務内容に対しOA用紙 一人あたり 10%削減（2005年度比）
2009年度目標	一人あたり 2%削減（前年度比）
2009年度実績	一人あたり 13.2%増加（前年度比）
2010年度目標	一人あたり 2%削減（前年度比）

廃棄物発生抑制

2010年中期目標	ゴミ排出量 一人あたり 10%削減（2005年度比）
2009年度目標	一人あたり 2%削減（前年度比）
2009年度実績	一人あたり 24.0%減少（前年度比）
2010年度目標	一人あたり 2%削減（前年度比）

▲ [このページの先頭へ戻る](#)

企業市民

< 詳細ページ： [社会との関わり](#) >

NPO/NGOsの支援

2010年中期目標	サステナブルな社会の創造につながる活動を行うNPO/NGOsを支援する
2009年度目標	引続き、クレアンの企業市民活動の方針に沿ったNPO/NGOs活動支援を行なう
2009年度実績	「ビッグイシュー基金」の「ひとり立ち応援会員」に寄付
2010年度目標	引続き、クレアンの企業市民活動の方針に沿ったNPO/NGOs活動支援を行なう

わたしたち自身の活動

2010年中期目標	社員および会社自身が、サステナブルな社会の創造につながる活動を行う
2009年度目標	社員へのボランティア活動の呼びかけなど、社員・会社としてのボランティア活動の推進と把握を行なう
2009年度実績	寄付活動の呼びかけと実施 (1) 使用済切手 (2) 使用済プリペイドカード (3) カレンダー送付
2010年度目標	社員へのボランティア活動の呼びかけなど、社員・会社としてのボランティア活動の推進と把握を行なう

社会の橋渡し役

2010年中期目標	サステナビリティに対する意識の高い人材を育成する
2009年度目標	インターン受け入れについて、総務課と共同で実施
2009年度実績	インターン受け入れなし
2010年度目標	インターン受け入れについて、総務課と共同で実施

▲ [このページの先頭へ戻る](#)

[トップページ](#) | [CSR報告書サービス](#) | [CSRコンサルティングサービス](#) | [企業情報](#) | [Changing the Future](#) | [サステナビリティレポート](#) | [CSR推進サポーター](#) | [無料相談・お問合せ](#) | [アクセス](#) | [採用情報](#) | [サイトマップ](#) |

Copyright Cre-en Inc,



クレアンは「CSR推進」と「CSR報告書企画制作」を一体で支援します

[CSR報告書サービス](#)[CSRコンサルティングサービス](#)[取引先実績](#)[企業情報](#)[お問合せ](#)現在位置：[ホーム](#) > [サステナビリティレポート](#) > 【マネジメント】リスクマネジメント・コンプライアンス

リスクマネジメント・コンプライアンス

すべてのステークホルダーとの信頼関係の強化、より一層の安心とサービスをご提供するための活動について、ご紹介します。

クレアンのリスクマネジメント・コンプライアンスの基本的な考え方は、「お客様・お取引先様をはじめとするステークホルダーの皆様との信頼関係を強化することで、より一層安心してサービスをご利用いただける環境を整えること」です。この基本方針のもと、リスクマネジメントとコンプライアンスを複合的に捉え、以下の3つの側面で活動を推進しています。

[厳格な情報管理](#)[情報システムの適正な管理](#)[災害対策と事業の継続性](#)

これらすべての側面において大切なのは、「社員一人ひとりの知識レベルと意識レベル」を高めることです。クレアンでは今後も、社員のコンプライアンス研修、リスクマネジメント研修に力を入れていきます。

厳格な情報管理

業務の遂行において不正競争防止法や個人情報保護法など関連する法規・法令を遵守し、当社の機密情報保護方針および個人情報保護方針に基づいた事業活動を展開しています。

お客様との間では機密保持契約書または機密保持および個人情報保護を含めた契約書を取り交わしています。また、お取引先との間では機密保持誓約書を交わすと同時に、公正な対応を心がけ、信頼関係を築いています。

機密情報・個人情報の適正な利用・取り扱いのため、社内研修を実施し、情報セキュリティ強化を推し進めています。

[▲このページの先頭へ戻る](#)

情報システムの適正な管理

「業務の安定・円滑な運営と業務の継続のための、情報システム構築および運用管理」を基本方針としています。クレアンのさまざまな業務を遂行するにあたり、お客様が安心してクレアンに業務を依頼できるよう、外部からの不正アクセスの防止のためのファイアウォール、情報漏えい・改ざん防止のためのアクセス制限、データの定期的なバックアップなど、基本的取り組みを徹底して行うことで、情報システムの適正な管理を追求しています。

[▲このページの先頭へ戻る](#)

サステナビリティレポート

マネジメント

CSRマネジメント

目標と実績

リスクマネジメント・コンプライアンス

機密情報保護方針

個人情報保護方針

理念とビジョン

経済性報告

社会性報告

環境報告

GRI内容索引



お問合せフォーム

無料相談、お問合せ、資料請求はこちらからお願います。

災害対策と事業の継続性

異常気象や地震を含めた自然災害に備えることは、企業の大切な取り組みとなっています。これらに対して、クレアンでは二つの側面で取り組みを進めています。一つは、災害、緊急、事故時における社員の対応能力や防犯意識の向上など社員一人ひとりの生命、財産の保護。そしてもう一つは、災害時（後）において、速やかな事業再開へ向けての仕組みの構築です。

2009年度は、ビル全体の火災訓練に参加しました。模擬消化訓練に参加することで、実際に非常事態が起きた際の留意点に気付きをえました。

▲ [このページの先頭へ戻る](#)

[トップページ](#) | [CSR報告書サービス](#) | [CSRコンサルティングサービス](#) | [企業情報](#) | [Changing the Future](#) | [サステナビリティレポート](#) | [CSR推進サポーター](#) | [無料相談・お問合せ](#) | [アクセス](#) | [採用情報](#) | [サイトマップ](#)

Copyright Cre-en Inc,



クレアンは「CSR推進」と「CSR報告書企画制作」を一体で支援します

CSR報告書サービス

CSRコンサルティングサービス

取引先実績

企業情報

お問合せ

現在位置：[ホーム](#) > [サステナビリティレポート](#) > 【マネジメント】機密情報保護方針

機密情報保護方針

サステナビリティレポート

マネジメント

CSRマネジメント

目標と実績

リスクマネジメント・コンプライアンス

機密情報保護方針

個人情報保護方針

理念とビジョン

経済性報告

社会性報告

環境報告

GRI内容索引

I 機密情報保護の基本方針

1. 基本方針

クレアン（以下、当社）は、当社とお客様・取引先との信頼関係を強化し、より一層の安心とサービスを提供するため、以下の機密情報保護方針を定める。当社内の機密情報およびお預かりした機密情報保護の確保と日々の改善に努めることが当社の事業活動の基本であり、社会的責務であることを認識し、本機密情報保護方針（以下方針）を遵守する。

なお、機密情報とは、機密情報を含む可能性のあるすべての有形資料および電子情報を含む。

1. 委託者から貸与された一切の資料。
2. 前項の複製・要約・その他二次的資料。
3. 電子メールやFAX、郵便物、電子掲示板などの内容および通信履歴。
4. 業務遂行に際し作成された一切の資料。
5. 業務の成果物のうち、機密情報を含む一切。

当社の事業においては、機密情報の収集、預かり、格納、伝達、報告、返却、消去といった業務が日常発生する。機密情報が守られなければ、当社の事業活動の停止、停滞、当社に対する信頼の失墜、失落は免れない。したがって、当社の全員が不断的努力をもって、機密情報を保護し、方針を遵守する責任があり、意図の有無を問わず、当社内外の機密情報に対する権限のないアクセスや改竄、複写、破壊、漏洩等を行ってならない。

当社CSR委員会リスクマネジメント部会は、利用者が方針を理解し、実施できるように教育、指導を徹底する責任がある。

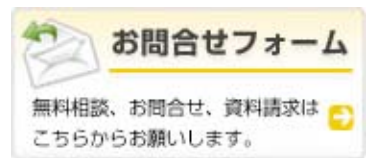
2. 趣旨ならびに位置付け

方針は、下記のとおりを設置目的をもって、当社の管理するコンピュータ、ネットワーク等を利用し情報を取り扱うにあたって、遵守しなければならない最低限の事項をまとめたものである。詳細は、関連法規、条約、当社の各種規約、ならびに内規等に従うものとする。

- 当社の機密情報保護に対する侵害の阻止
- 当社内外の機密情報保護を侵害する行為の抑止
- 情報の機密区分の分類と管理責任者の策定
- 情報の機密区分に応じた管理策
- 機密情報ごとのITインフラとマネジメント
- 機密情報保護の評価と更新
- 建物内の入退出管理
- 機密情報を取り扱う人の情報管理の状況と必要な管理策の実施

3. 対象範囲ならびに適用と責任

当社における方針の対象範囲は、当社全体とし、方針は、当社の機密情報を利用する当社の



役職員および従業員（取締役、正社員、契約社員、インターン等）すべてに適用される。役職員および従業員は、諸規程に定めている責任を果たさなければならない。

4. 罰則

本基本方針、諸規程、ガイドラインおよびそれらに付属する規則等に従わない場合は、就業規則に定められている懲戒の規定に従い処罰される。

5. 実施手順

本方針の実施手順は、当社の規約、内規等によって別途定めるものとする。

▲ [このページの先頭へ戻る](#)

情報システムの適正な管理

「業務の安定・円滑な運営と業務の継続のための、情報システム構築および運用管理」を基本方針としています。クリーンのさまざまな業務を遂行するにあたり、お客様が安心してクリーンに業務を依頼できるよう、外部からの不正アクセスの防止のためのファイアウォール、情報漏えい・改ざん防止のためのアクセス制限、データの定期的なバックアップなど、基本的取り組みを徹底して行うことで、情報システムの適正な管理を追求しています。

▲ [このページの先頭へ戻る](#)

II 対策基準

1. 運営体制

機密情報保護の責任者は、当社代表とする。当社代表は、機密情報保護に関する総括的な意思決定を行い、当社内外に対する全責任を負うものとする。方針の解釈に関しては、当社代表がすべての権利を保有し、当社代表による解釈をもってその最終決定とする。方針の策定ならびに重要事項の決定は、当社CSR委員会が行うものとする。システム管理責任者ならびにシステム管理者は、CSR委員会リスクマネジメント部会が担うものとし、システム管理の実施、緊急時の対応等にあたる。情報保護に関する啓発および教育についても、CSR委員会リスクマネジメント部会が担当し、自主管理ドメイン等のシステム管理者に対する教育を行うとともに、一般の利用者に対する幅広い初心者教育を行う。

2. 機密情報保護侵害の阻止および侵害行為の抑止

2. 1 機密情報保護侵害の阻止

外部または内部からの不正アクセスが検出された場合、当社のネットワーク管理者は、緊急措置手順に従って関連する通信の遮断または該当する情報機器の切り離しを実施する。不正アクセスが継続する場合には、所定の手続きに基づいて、当該情報機器またはそれを接続するネットワークに対し、事態を警告し、対策をとるよう勧告し、さらには、定常的な利用を停止するなどの抑止措置をとる場合ができる

2. 2 当社内外の機密情報保護を侵害する行為の抑止

当社内外を問わず、あらゆる機関、企業、組織、団体、個人等の機密情報を侵害してはならない。また、情報保護に関連する諸法規、条約ならびに当社が定める規約等を遵守しなければならない。

3. 機密情報の管理者と機密情報の扱い

3. 1 機密情報の管理者

当社の管理する機器に保存された情報は、当社のシステム管理者が管理しなければならない。当社の管理するネットワークに個人および自主管理ドメインの機器を接続した場合、当

該機器内の情報は、その機器および自主管理ドメインのシステム管理者と利用者が管理しなければならない。

3. 2 非公開情報の扱い

営業、制作、個人情報等の非公開情報を不当に利用してはならない。情報は適切に管理されなければならない。権限のない情報に対してアクセスを行ったり利用したりしてはならない。情報の盗難・漏洩等を防止するため、非公開情報を扱うネットワークは、暗号化や盗聴防止策を講じなければならない。また、情報が記録された媒体は、適切に管理されなければならない。

3. 3 限定公開情報の扱い

特定の利用者に特定の情報を公開する場合、その情報の登録・閲覧は、許可された者が許可された操作だけを行えるように、認証、アクセス制御等を実施しなければならない。非公開情報を扱う場合と同じく、ネットワークは、暗号化や盗聴防止策を講じなければならない。さらに、異常な登録、閲覧および操作が行われていないか、定期的に調査・確認しなければならない。

3. 4 公開情報の扱い

あらゆる公開情報を不当に利用してはならない。情報は改竄、破壊されないように適切に管理されなければならない。また、非公開情報を公開する場合には、個人情報の漏洩、プライバシーや著作権の侵害に十分注意し、公開できる情報だけを抽出し、公開してよい形に加工しなければならない。情報が記録された媒体は、適切に管理されなければならない。

3. 5 情報機器および記憶媒体の処分

非公開・限定公開・公開を問わず、情報機器および記憶媒体を破棄する場合は、その処分方法に注意しなければならない。

4. 機密情報保護ならびに方針の評価と更新

4. 1 機密情報保護の評価と更新

当社の機密情報を守るためには、適切な物理的・技術的・人的セキュリティが実施されているかを定期的に評価・調査・監査しなければならない。改善が必要と認められた場合は、速やかに情報セキュリティの更新を行わなければならない。

4. 2 方針の評価と更新

機密情報保護の調査とともに、方針の実効性を定期的に評価し、改善が必要と認められた場合には、変更内容および実施時期の決定を行い、保護レベルの高い、かつ遵守可能な方針に更新しなければならない。

附 則

この機密情報保護方針は、2005年4月1日より施行する。

株式会社クレアン代表取締役社長
蘭田綾子

▲ [このページの先頭へ戻る](#)

[トップページ](#) | [CSR報告書サービス](#) | [CSRコンサルティングサービス](#) | [企業情報](#) | [Changing the Future](#) | [サステナビリティレポート](#) |
[CSR推進サポーター](#) | [無料相談・お問合せ](#) | [アクセス](#) | [採用情報](#) | [サイトマップ](#) |

Copyright Cre-en Inc,



クレアンは「CSR推進」と「CSR報告書企画制作」を一体で支援します

[CSR報告書サービス](#)[CSRコンサルティングサービス](#)[取引先実績](#)[企業情報](#)[お問合せ](#)現在位置：[ホーム](#) > [サステナビリティレポート](#) > 【マネジメント】個人情報保護方針

個人情報保護方針

お客様のプライバシーを適切に保護することは、私たち、クレアン（以下、当社）の重要な責務です。当社は、以下の個人情報保護方針に基き、お客様、お取引様の個人情報＊を慎重に取り扱い、安全かつ適切な保護に努めます。

＊個人情報

事業のために取得する、お客様・お取引様の氏名、年齢、勤務先、役職、性別、生年月日、住所、電話番号、FAX番号、メールアドレス等の個人に関する情報であり、これらの組合せにより特定の個人を識別することができる情報を指します。

1. 基本方針

当社では、お客様・お取引様を初めとする、当社に個人情報を提供されるすべての方（以下、「ご本人」とします）の個人情報を適切に保護する方針を定め、個人情報の適正な利用・取り扱いに努めます。

2. 法令・規範の遵守

当社は、個人情報の適正な利用・取り扱いのため、「個人情報の保護に関する法律（以下「法」とします）」ほか関連法令及びガイドラインその他当社の内部規範を遵守します。また、個人情報の適切な利用・取り扱いについて、従業員に対し必要な教育・啓発活動を行います。

3. 個人情報の利用・取り扱い

(1) 個人情報の取得について

個人情報の取得については、法に定める場合を除き、ご本人に対し利用目的を明確にし、その達成に必要な範囲において、適法かつ公平な方法を用います。

(2) 個人情報の利用について

個人情報の利用については、法に定める場合を除き、利用目的の達成に必要な範囲を超えて、ご本人の個人情報を利用することは致しません。

(3) 個人情報の第三者への提供について

個人情報の第三者への提供については、法に定める場合およびご本人の同意を得ている場合を除き、ご本人の個人情報を第三者に提供することは致しません。

(4) 個人情報のお問い合わせについて

ご本人がご自身の個人情報の照会、変更、修正等を希望される場合には、個人情報をご提供された当社または担当者にご連絡いただければ、当社所定の手続きに基き、すみやかに対応いたします。

(5) 個人情報の委託について

利用目的の達成に必要な範囲内で、個人情報の取り扱いを委託することがあります。この場合は、個人情報の適切な管理能力を有することを条件とし、個人情報の利用・取り扱いに関

[サステナビリティレポート](#)[マネジメント](#)[CSRマネジメント](#)[目標と実績](#)[リスクマネジメント・コンプライアンス](#)[機密情報保護方針](#)[個人情報保護方針](#)[理念とビジョン](#)[経済性報告](#)[社会性報告](#)[環境報告](#)[GRI内容索引](#)

お問合せフォーム

無料相談、お問合せ、資料請求は
こちらからお願いします。

する定めを締結します。

4. 個人情報の適正な管理

個人情報を安全かつ適正に取り扱うために、個人情報への不正アクセス、個人情報の紛失・破壊・毀損・滅失および漏洩などが起こらないための適切な措置を講じます。

5. 個人情報の利用・取り扱いの改善

個人情報の取り扱いの定めを必要に応じて見直し、改善を図ります。

2005年4月1日
株式会社クレアン
代表取締役社長 藺田綾子

▲ [このページの先頭へ戻る](#)

[トップページ](#) | [CSR報告書サービス](#) | [CSRコンサルティングサービス](#) | [企業情報](#) | [Changing the Future](#) | [サステナビリティレポート](#) |
[CSR推進サポーター](#) | [無料相談・お問合せ](#) | [アクセス](#) | [採用情報](#) | [サイトマップ](#) |

Copyright Cre-en Inc,



クレアンは「CSR推進」と「CSR報告書企画制作」を一体で支援します

CSR報告書サービス

CSRコンサルティングサービス

取引先実績

企業情報

お問合せ

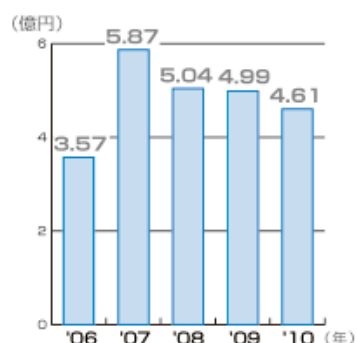
現在位置：[ホーム](#) > [サステナビリティレポート](#) > 【経済性報告】財務情報

財務情報

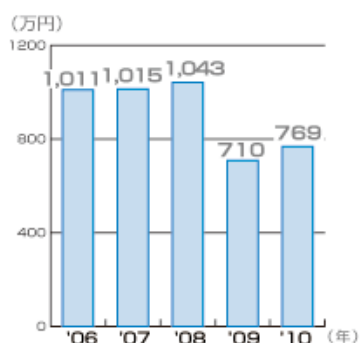
すべてのステークホルダーから期待される企業であり続けるために、CSRマネジメント体制を築き、事業と経営を一体としたCSR活動を推進しています。

2010年1月期における財務の概況は以下のとおりです。

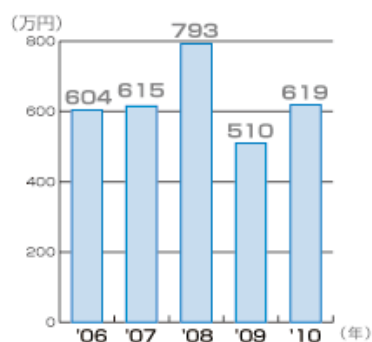
売上高推移（各1月期）



経常利益推移（各1月期）



当期純利益推移（各1月期）



サステナビリティレポート

経済性報告

財務情報

ステークホルダーとの経済的関係

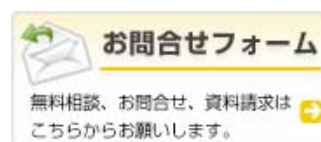
理念とビジョン

マネジメント

社会性報告

環境報告

GRI内容索引

[▲このページの先頭へ戻る](#)[トップページ](#) | [CSR報告書サービス](#) | [CSRコンサルティングサービス](#) | [企業情報](#) | [Changing the Future](#) | [サステナビリティレポート](#) | [CSR推進サポーター](#) | [無料相談・お問合せ](#) | [アクセス](#) | [採用情報](#) | [サイトマップ](#)

Copyright Cre-en Inc.

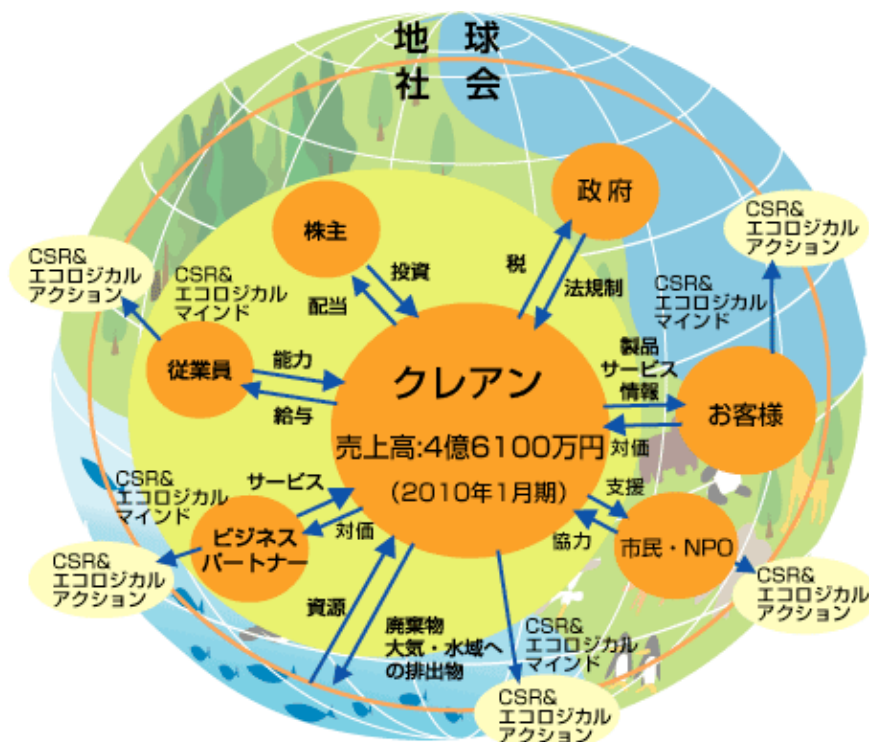


クレアンは「CSR推進」と「CSR報告書企画制作」を一体で支援します

[CSR報告書サービス](#)[CSRコンサルティングサービス](#)[取引先実績](#)[企業情報](#)[お問合せ](#)現在位置：[ホーム](#) > [サステナビリティレポート](#) > 【経済性報告】ステークホルダーとの経済的関係

■ ステークホルダーとの経済的関係

クレアンの事業は、さまざまなステークホルダーのご協力に支えられて成り立っています。ここでは、事業を営む上でそれぞれのステークホルダーとの間に生じる経済的関わりについてステークホルダー図を用いて説明します。

[▲ このページの先頭へ戻る](#)[サステナビリティレポート](#)[経済性報告](#)[財務情報](#)[ステークホルダーとの経済的関係](#)[理念とビジョン](#)[マネジメント](#)[社会性報告](#)[環境報告](#)[GRI内容索引](#)

お問合せフォーム

無料相談、お問合せ、資料請求はこちらからお願いします。

[トップページ](#) | [CSR報告書サービス](#) | [CSRコンサルティングサービス](#) | [企業情報](#) | [Changing the Future](#) | [サステナビリティレポート](#) | [CSR推進サポーター](#) | [無料相談・お問合せ](#) | [アクセス](#) | [採用情報](#) | [サイトマップ](#)

Copyright Cre-en Inc,



クレアンは「CSR推進」と「CSR報告書企画制作」を一体で支援します

[CSR報告書サービス](#)[CSRコンサルティングサービス](#)[取引先実績](#)[企業情報](#)[お問合せ](#)現在位置：[ホーム](#) > [サステナビリティレポート](#) > 【社会性報告】社員との関わり

社員との関わり

クレアンの重要なステークホルダーは事業活動を支える社員です。「サステナブルな社会を実現する」というビジョンを共有する社員が集まっています。

日々の業務のなかで大切なことを忘れずに仕事で実現することができるよう、毎週月曜日の朝礼では「[企業理念](#)」「[2020年ビジョン](#)」を唱和し、目指す方向性と価値観を共有しています。

社員一人ひとりが、その想いと重なる「本当にやりたい仕事」に意欲を持って臨める環境をととのえること。そして自己実現を実感できること。それが企業の重要な責任だと考えています。

[人が活きる職場環境づくり](#)[社員満足度調査](#)[▲このページの先頭へ戻る](#)

サステナビリティレポート

社会性報告

社員との関わり

人が活きる職場環境づくり

社員満足度調査

お客さまとの関わり

顧客満足度調査の実施

ステークホルダー・ダイアログ2008

取引先との関わり

ステークホルダー・メッセージ

社会との関わり

企業市民活動

理念とビジョン

マネジメント

経済性報告

環境報告

GRI内容索引



お問合せフォーム

無料相談、お問合せ、資料請求はこちらからお願いします。

[トップページ](#) | [CSR報告書サービス](#) | [CSRコンサルティングサービス](#) | [企業情報](#) | [Changing the Future](#) | [サステナビリティレポート](#) | [CSR推進サポーター](#) | [無料相談・お問合せ](#) | [アクセス](#) | [採用情報](#) | [サイトマップ](#)

Copyright Cre-en Inc,



クレアンは「CSR推進」と「CSR報告書企画制作」を一体で支援します

[CSR報告書サービス](#)[CSRコンサルティングサービス](#)[取引先実績](#)[企業情報](#)[お問合せ](#)現在位置：[ホーム](#) > [サステナビリティレポート](#) > 【社会性報告】人が活きる職場環境づくり

人が活きる職場環境づくり

社員が働きやすい職場、自己実現できる制度とは何か。クレアンらしい職場環境づくりをすすめています。

働きやすい職場環境の整備

クレアンにとって、最も重要な経営資源は人材です。社員が働きやすい職場にするため、一人ひとりの個性や感性を尊重する働き方ができるよう、心がけています。クレアン社員の平均年齢は37.5歳。仕事中心の働き方ではなく、男女の性差にとらわれず、プライベートと仕事を両立できる仕組みをつくることを人事方針としています。2009年度は有給休暇消化率が低下しました。とくに取得数の少ない部門については、上長を交えて対応を模索します。

人事について（2010年1月31日現在）

従業員数	30名
男女別従業員数	女性：19名、男性11名
平均年齢	37.5歳
女性役員数	全役員数4名のうち女性1名

[▲このページの先頭へ戻る](#)

ワーク・ライフ・バランス

有給休暇の活用

プライベートも仕事もともに充実できるよう、有給休暇の活用を勧めています。年2回、全社員に有給休暇所有数を通知し、積極的な利用を促しています。2009年度の有給休暇消化率は62%と2008年度を大きく下回りました。新規部門の立ち上げや本社移転が要因としてあげられますが、有給休暇消化率の低いユニットについては、上司が率先して有給を利用するなど、継続して対応を模索します。

介護休暇制度

社員の親族の看護を目的とした休暇制度を導入しています。要介護状態にある配偶者、父母、子、配偶者の父母、祖父母、兄弟姉妹等がいる場合に、要介護必要者一人につき最長93日の介護休業を取得する制度です。2009年度の介護休暇取得者は0名でした。

育児に関する各種制度

出産または育児を担う社員に対する制度として、育児休業制度を導入しています。育児休業の期間は子が1歳6か月に達するまでを限度して取得できる制度です。また、3歳に満たな

サステナビリティレポート

社会性報告

社員との関わり

人が活きる職場環境づくり

社員満足度調査

お客さまとの関わり

顧客満足度調査の実施

ステークホルダー・ダイアログ2008

取引先との関わり

ステークホルダー・メッセージ

社会との関わり

企業市民活動

理念とビジョン

マネジメント

経済性報告

環境報告

GRI内容索引



お問合せフォーム

無料相談、お問合せ、資料請求はこちらからお願います。

い子を養育する場合には育児短時間勤務のほか、小学校就学前の子の看護休暇として1年間につき5日間を限度として特別休暇を利用できます。2009年度は、育児休業を取得した社員は2名（うち1名は男性）、育児短時間勤務を利用した社員は1名、子の看護休暇を取得した社員は2名でした。これからもライフステージに合わせて仕事と両立できる制度を整備していきます。

定期健康診断とオプション健診支援

毎年1回全社員を対象に定期健康診断を実施しています。2008年度より、社員一人ひとりが自分の健康状態を知り、関心を持つように人間ドックの利用を推奨し、一部を除き費用は会社で負担しています。

社員向け健康相談

クレアンでは、社員が各地区医師会に所属する地域産業保健センター内の相談室または医療機関に健康に関する相談を受けられるようにしております。これは、センター登録の認定産業医または医療機関が、センター登録された事業者および労働者からの健康に関するあらゆる相談に応じている制度です。健康に不安があるときや、健康診断の結果などに応じて利用を促しています。

制度について（2010年1月31日現在）

健康診断	1回/年度
有給休暇消化率	62% ※前年度：71%
年間休日数	128日（夏季：3日 冬季：5日を含む）
育児休業取得者	2名
育児短時間勤務利用者	1名
子の看護休暇取得者	2名

▲ [このページの先頭へ戻る](#)

人財開発のための教育・研修

教育・研修を通じて社員の成長をサポート

クレアンでは、会社は人間としての成長を図る場であり、社員には仕事を通して多くのことを体験し、学んでもらいたいという考えのもと、教育・研修活動を行っています。研修は、「基礎研修」「専門スキル研修」「上級ビジネス研修」から成り、毎年改善を重ねながら充実を図っています。社員一人ひとりのレベルアップが会社全体のレベルアップにつながることから、社内外の専門家講師による講義や自発的に参加する社外研修など、社員の教育・研修機会の拡大・充実にも力を入れています。

2009年度は、私たちのミッションであるサステナブルな社会の実現のために、自分たちが「こうありたい」という人財像をより明確にするために、「[クレアンバリュー](#)」を策定しました。またこれに伴い人財評価制度の大幅な改訂を行いました。これらは2010年度より運用を開始していきます。

専門性とコミュニケーションスキルを高めるために

地球環境問題およびCSR関連の情報は、日々発信され状況が変化するため、国内外の情報収集を専門に行う社員を社内に常駐させ、社員全員で最新の情報を共有しています。また、す

すべての社員がCSRの専門分野を持ち、その分野に関係のあるシンポジウムやセミナーへ積極的に参加することを通じて、個々人の能力および専門性を高めています。イベント参加後は、イントラネットにおける報告レポートや社内報告会の開催を通じて、社員全員で知識の共有を図るとともに、コミュニケーションスキルの向上にも努めています。社員一人ひとりの特長を見極めたうえで、その能力が最大限引き出される環境づくりに、今後も力を入れていきます。

▲ [このページの先頭へ戻る](#)

[トップページ](#) | [CSR報告書サービス](#) | [CSRコンサルティングサービス](#) | [企業情報](#) | [Changing the Future](#) | [サステナビリティレポート](#) |
[CSR推進サポーター](#) | [無料相談・お問合せ](#) | [アクセス](#) | [採用情報](#) | [サイトマップ](#) |

Copyright Cre-en Inc,



クレアンは「CSR推進」と「CSR報告書企画制作」を一体で支援します

➡ CSR報告書サービス

➡ CSRコンサルティングサービス

➡ 取引先実績

➡ 企業情報

➡ お問い合わせ

現在位置：[ホーム](#) > [サステナビリティレポート](#) > 【社会性報告】社員満足度調査

社員の満足が会社を強くするー社員満足度調査ー

クレアンは、社員が生きがい、働きがいを感じることでできる職場環境を整備し、満足度の向上を図ることが、長期的な発展に結びつくと考えています。

クレアンでは社員の会社に対する満足度を測るため、毎年1回アンケートを実施しています。
2009年度は、アンケートの枠組みについて大幅な改訂を行い、新しい項目での調査となりました。

「仕事の意義」「評価・処遇」「人財育成」「福利厚生・労働条件」「組織風土」「対人関係」「経営方針」の7軸で集計し、各軸5～8つ、合計48の質問をもうけ、4点を最高とする4段階で評価を行いました。また、今回より総合満足度についても7点を最高点とする7段階で評価を行いました。

グラフは横軸に年度、縦軸にポイントをとっています。調査項目ごとに折れ線グラフで表示しました。アンケートの結果は、制度設計や研修プログラムなどに反映させ、ポイント向上をめざします。

社員満足度調査結果

総合満足度：4.3（7段階評価）

[▲ このページの先頭へ戻る](#)

サステナビリティレポート

社会性報告

[社員との関わり](#)[人が活きる職場環境づくり](#)

社員満足度調査

[お客さまとの関わり](#)[顧客満足度調査の実施](#)[ステークホルダー・ダイアログ2008](#)[取引先との関わり](#)[ステークホルダー・メッセージ](#)[社会との関わり](#)[企業市民活動](#)[理念とビジョン](#)[マネジメント](#)[経済性報告](#)[環境報告](#)[GRI内容索引](#)

お問い合わせフォーム

無料相談、お問合せ、資料請求は
こちらからお願いします。

[トップページ](#) | [CSR報告書サービス](#) | [CSRコンサルティングサービス](#) | [企業情報](#) | [Changing the Future](#) | [サステナビリティレポート](#) |
[CSR推進サポーター](#) | [無料相談・お問合せ](#) | [アクセス](#) | [採用情報](#) | [サイトマップ](#)

Copyright Cre-en Inc.



クレアンは「CSR推進」と「CSR報告書企画制作」を一体で支援します

[CSR報告書サービス](#)[CSRコンサルティングサービス](#)[取引先実績](#)[企業情報](#)[お問合せ](#)現在位置：[ホーム](#) > [サステナビリティレポート](#) > 【社会性報告】お客さまとの関わり

お客さまとの関わり

お客さまのかかわりにおいてクレアンが最も大切にしていることは、お客さまの満足です。これはお客さまのニーズに応えることにとどまらず、お客さまが期待する以上のものを提供することを意味しています。同じ表現を使われている企業が多いなか、私たちが他の企業と異なる点は、お客さまの満足追求と両立して、社会全体のサステナビリティを同時に追求している点です。

お客さまをはじめ、私たちを取りまくすべてのステークホルダーの皆さまとお付き合いをしていくなかで、サステナブルな社会像と一緒に描き、その実現に向けて協働したいと常に考えています。またその相互作用プロセスを通じて社会をより良い方向へ必ず変えていくことができると信じています。その意味で、お客さまも、サステナブルな社会実現を担う主役の一人だと認識しています。

もちろん、このような協働を進める上では、お客さまとの信頼関係をしっかりと築いていることが大前提です。お客さまが望んでいることをしっかり把握した上で、質の高い仕事をすることでなく、常に新しい価値を提供することに全力にあたります。お客さまの満足と社会そして地球環境が高いレベルでバランスがとれるように日々仕事に取り組んでいます。

こうしたマインドを全社員に浸透させるため、行動規範として「クレアンのあたりまえ」を1999年に設け、毎週月曜日の朝礼で唱和しています。

[顧客満足度調査の実施](#)[ステークホルダー・ダイアログ2008](#)[▲ このページの先頭へ戻る](#)

サステナビリティレポート

社会性報告

社員との関わり

人が活きる職場環境づくり

社員満足度調査

お客さまとの関わり

顧客満足度調査の実施

ステークホルダー・ダイアログ2008

取引先との関わり

ステークホルダー・メッセージ

社会との関わり

企業市民活動

理念とビジョン

マネジメント

経済性報告

環境報告

GRI内容索引



お問合せフォーム

無料相談、お問合せ、資料請求は
こちらからお願いします。[トップページ](#) | [CSR報告書サービス](#) | [CSRコンサルティングサービス](#) | [企業情報](#) | [Changing the Future](#) | [サステナビリティレポート](#) |
[CSR推進サポーター](#) | [無料相談・お問合せ](#) | [アクセス](#) | [採用情報](#) | [サイトマップ](#)

Copyright Cre-en Inc,



クレアンは「CSR推進」と「CSR報告書企画制作」を一体で支援します

CSR報告書サービス

CSRコンサルティングサービス

取引先実績

企業情報

お問合せ

現在位置：[ホーム](#) > [サステナビリティレポート](#) > 【社会性報告】顧客満足度調査の実施

顧客満足度調査の実施

お客様の満足度を把握するため、2009年9月より第4回目となる顧客満足度調査を実施しました。この結果を共有し今後の活動に活かしていくため、社内で集計結果を踏まえた意見交換会を開催しました。

調査の結果

実施期間：2009年9月～2010年2月

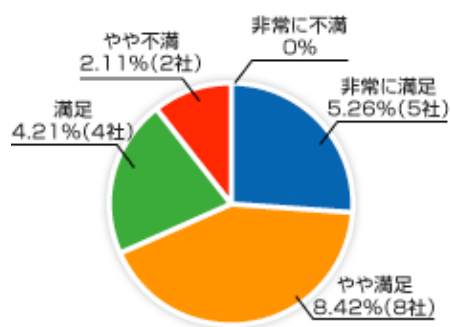
調査対象：当社が報告書の企画制作を含めCSRコンサルティングをお手伝いした全てのお客様

回答数：19社

調査方法：アンケート調査

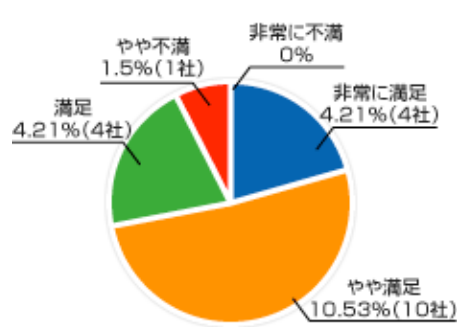
2009年度報告書

仕上がりについての満足度 <5段階評価>

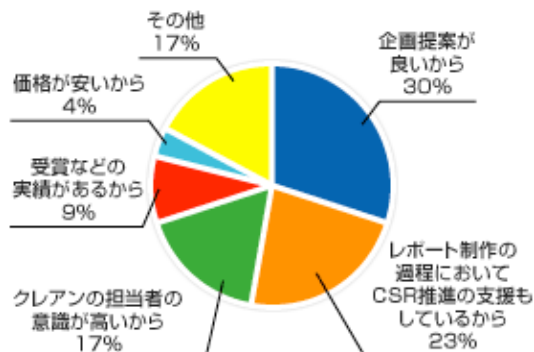


企画提案力

<5段階評価>



クレアンへの発注理由



主なご意見

サステナビリティレポート

社会性報告

社員との関わり

人が活きる職場環境づくり

社員満足度調査

お客さまとの関わり

顧客満足度調査の実施

ステークホルダー・ダイアログ2008

取引先との関わり

ステークホルダー・メッセージ

社会との関わり

企業市民活動

理念とビジョン

マネジメント

経済性報告

環境報告

GRI内容索引



お問合せフォーム

無料相談、お問合せ、資料請求はこちらからお願いします。

<評価していただいた点>

社内CSR浸透への貢献

スケジュール管理

<改善および期待する点>

原稿・デザインのさらなる品質の向上

総括と今後の施策

アンケート調査の結果、報告書については「満足している・やや満足している・満足」の評価が89%となり、完成した報告書については概ね満足いただいている結果となりました。その一方で原稿、デザインに関しては昨年に引き続き、さらなる期待・ご要望があることがわかりました。

これらの結果については、タイムリーに担当者へフィードバックし、次期提案に活かしています。

今後もお客様のご期待に応えられるよう、弊社の強みを活かした積極的な提案を行うとともに、さらなるCSR推進のご支援を行ってまいります。

▲ [このページの先頭へ戻る](#)

[トップページ](#) | [CSR報告書サービス](#) | [CSRコンサルティングサービス](#) | [企業情報](#) | [Changing the Future](#) | [サステナビリティレポート](#) |
[CSR推進サポーター](#) | [無料相談・お問合せ](#) | [アクセス](#) | [採用情報](#) | [サイトマップ](#) |

Copyright Cre-en Inc,



クレアンは「CSR推進」と「CSR報告書企画制作」を一体で支援します

CSR報告書サービス

CSRコンサルティングサービス

取引先実績

企業情報

お問合せ

現在位置：[ホーム](#) > [サステナビリティレポート](#) > 【社会性報告】ステークホルダー・ダイアログ2008

ステークホルダー・ ダイアログ 2008

2008年4月17日、クレアンのステークホルダー5名の方を東京支店にお招きして、第2回目のステークホルダー・ダイアログを開催しました。

当日は、CSR推進およびCSRレポートの企画・制作でおつき合いをさせていただいているお客さま3社の方と、消費者視点の専門家および学識経験者である2名の有識者の方にお集まりいただき、「サステナブルな社会の実現に向けてクレアンに期待すること」をテーマにご意見をいただきました。

ダイアログの様子は、東京支店の会場で、またテレビ会議システムを使って大阪本社とつなぐことで、両事業所の社員が傍聴しました。

サステナビリティレポート

社会性報告

社員との関わり

人が活きる制度づくり

社員満足度調査

お客さまとの関わり

顧客満足度調査の実施

**ステークホルダー・ダイ
アログ2008**

取引先との関わり

ステークホルダー・メッ
セージ

社会との関わり

企業市民活動

理念とビジョン

マネジメント

経済性報告

環境報告

GRI内容索引

参加者（写真左より五十音順）



辰巳菊子氏

社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会理事

豊田洋介氏

株式会社大和証券グループ本社 CSR室 次長

中村政樹氏

伊藤忠商事株式会社 金融・不動産・保険・物流カンパニー 保険第
二部長
(前 CSR・コンプライアンス統括部 CSR推進室長)

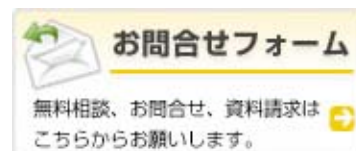
野村浩一氏

富士ゼロックス株式会社 CSR部 企画推進グループ グループ長

水口剛氏

高崎経済大学 経済学部 教授

※富士ゼロックス株式会社 野村様に本ダイアログの座長をご担当いただきました。



▲ [このページの先頭へ戻る](#)

テーマ：「持続可能な社会の構築へ向けてクリーンに期待すること」

これからの社会の変化とCSR

[これからの社会はどうなっていくか](#)

[社会全体の意識がついてこない](#)

クリーンに期待すること

[常に進化しなければいけない](#)

[ダイアログを終えて](#)

▲ [このページの先頭へ戻る](#)

[トップページ](#) |
 [CSR報告書サービス](#) |
 [CSRコンサルティングサービス](#) |
 [企業情報](#) |
 [Changing the Future](#) |
 [サステナビリティレポート](#) |
 [CSR推進サポーター](#) |
 [無料相談・お問合せ](#) |
 [アクセス](#) |
 [採用情報](#) |
 [サイトマップ](#)

Copyright Cre-en Inc,



クレアンは「CSR推進」と「CSR報告書企画制作」を一体で支援します

CSR報告書サービス

CSRコンサルティングサービス

取引先実績

企業情報

お問合せ

現在位置：[ホーム](#) > [サステナビリティレポート](#) > 【社会性報告】ステークホルダー・ダイアログ2008

ステークホルダー・ダイアログ2008

これからの社会の変化とCSR

野村氏：今日は、これからの社会はどうなっていくのか、その中で各セクターの果たすべき役割は何か、特に企業におけるCSRとはどうあるべきかを議論した後で、持続可能な社会の実現のために、クレアンに期待することについて話していきたいと思います。

これからの社会はどうなっていくか

水口氏：今後の社会の行く末について私は悲観的に捉えています。中国やインドが経済発展をしていますが、私の印象では中国はアメリカ的な考え方と親和性があって、市場原理主義が入りやすい国なのではないかと感じているからです。そういう意味でこのまま行くと少し怖いな、と感じています。

辰巳氏：私は日常の暮らしという視点から社会を見ていますが、生きるために必要な衣食住が今後も本当に持続可能なのか想像が付きません。中でも一番気懸かりなのが食。日本は食の海外依存度が非常に高い国ですし……。そう考えると、世界の安定が大切になり、長期的に見れば、持続可能性と平和はイコールではないかと思えます。



水口氏：これからの社会は、やはり企業が中心で、社会を良くするか悪くするかの鍵は企業が握っていると思います。もう1つの鍵はお金。目先の利益だけではなく、社会のことも考えて行動できるような資金の流れをつくっていけるか、そしてその期待に応えられるような金融機関の存在が重要になってくると思います。

豊田氏：資金の流れを決める責任は基本的に投資家にあります。私たち証券会社の主な役割は仲介ですが、その制約の中でどれだけそういう資金の流れをつくれるか。資金は水が高いところから低いところへ流れるように、より儲かりそうなところに流れていくもの。金銭的でなく社会的なリターンへ資金が向かうかどうかについては今のところ不透明です。



水口氏：個人投資家が儲かるところにお金を出すのは仕方がない。ただ、大きなお金を預かっている、例えば年金などのお金は規制されるべきではないかと思っています。つまり環境や社会のことも考えて投資するように。それは大きなお金を動かす人の社会的な義務ではないでしょうか。

豊田氏：私もそのとおりだと思います。たとえばこんな例もあります。「自分の加盟している年金はSRIをやるべきか」というアンケートをすると、「そうすべき」と賛成する人が大半なのです。

水口氏：国連の責任投資原則（PRI：Principles for Responsible Investment）に署名している世界の年金資金の総額は今13兆ドルにもなっている。結構大きなお金が署名をしているわけです。資金を野放しにしておくとは危ない、ということを世界が理解し始めた証拠ではない

サステナビリティレポート

社会性報告

社員との関わり

人が生きる制度づくり

社員満足度調査

お客さまとの関わり

顧客満足度調査の実施

ステークホルダー・ダイアログ2008

取引先との関わり

ステークホルダー・メッセージ

社会との関わり

企業市民活動

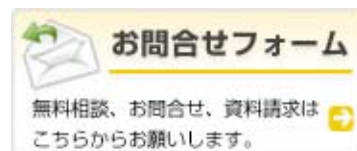
理念とビジョン

マネジメント

経済性報告

環境報告

GRI内容索引



かと思っています。

中村氏：世界的にはそうかもしれませんが、日本の企業年金の方の話をいろいろなところで聞くとがっかりします。そこには、資金の流れを変えて行こうという発想はほとんどないんですね。少なくとも日本の現状においてはそれが現実なのではないでしょうか。

1 | [2](#) | [3](#) | [4](#) | [次のページ>](#)

▲ [このページの先頭へ戻る](#)

[トップページ](#) | [CSR報告書サービス](#) | [CSRコンサルティングサービス](#) | [企業情報](#) | [Changing the Future](#) | [サステナビリティレポート](#) |
[CSR推進サポーター](#) | [無料相談・お問合せ](#) | [アクセス](#) | [採用情報](#) | [サイトマップ](#) |

Copyright Cre-en Inc,



クレアンは「CSR推進」と「CSR報告書企画制作」を一体で支援します

CSR報告書サービス

CSRコンサルティングサービス

取引先実績

企業情報

お問合せ

現在位置：[ホーム](#) > [サステナビリティレポート](#) > 【社会性報告】ステークホルダー・ダイアログ2008

■ ステークホルダー・ダイアログ2008

これからの社会の変化とCSR

社会全体の意識がついてこない



野村氏：日本では、環境問題ひとつとっても、社会全体の意識はあまり高まっていないと感じています。企業の側から言わせると、生活者がみんな環境に配慮されている商品を好み、購買するようになれば、企業はあつという間にそっちを向くだろうに、とは思います。

中村氏：企業はそれなりに頑張っていると私は思うのですよ。ただそういうものを認める一般社会の雰囲気というか受け皿がなければ、経済行為としてそれを選択できないという現実がある。企業が技術革新を起こして何とかしてくれる、と企業だけに頼り、責任を負わずのは絶対に良くない、ということだけは言っておきたいと思います。

豊田氏：企業には今でも、「売れるものをつくって何ぼ。一番収益に貢献しそうな人が社長になっていく」という絶対的な評価軸がある。ただここ数年間で、その一本しかなかった評価軸のところにもう一本、「環境や社会への貢献」という軸がでかかってくるのも事実。今後はそれをどう育てていくかではないでしょうか。

中村氏：たとえば自動車がいい例だと思うのですが、そこでは環境に対する投資やものづくりでの努力が経済価値に置き換えられつつある。それは世の中の消費者の行動がそうになっているからです。しかしそうでない現実がまだまだあって、世の中に対する、特に一般の方に対する働きかけをどうしていくのかがやはり重要になるのではないかと思います。

辰巳氏：私たちはものを選ぶときに、商品のライフサイクルを見てきちんと選択しなければいけない、と言い続けています。地球温暖化が話題となって、自動車でも使用時におけるCO2削減ばかりが注目されますが、資源をとってきて生産するまでの環境負荷はどうか、また使い終わった後の廃棄段階での環境負荷はどうか。でも情報提供がされないためにそこがよく見えない。消費者が企業を支え、パートナーシップをつくっていくためには、そういうところをきちんと伝えていただかないと。

水口氏：私が消費者側に責任がある、と言われるのがちょっと違うと思うのは、消費者はすでにあるものの中からしか買うことができない、ということがひとつ。そして企業は今まで本当に消費者が欲しいものを提供してきたか、売りたいものを買わせてきたという側面はないか、とは思いますね。

辰巳氏：そういった意味でも、私は消費者のどこを見て消費者ニーズと言われているのか疑問だと思うことがよくあります。たとえば身近な例でいうと、缶やペットの飲料のラベルが曲がったり、ずれていたりすることでその商品は市場に出ず、廃棄処分となる。その理由を

サステナビリティレポート

社会性報告

社員との関わり

人が活きる制度づくり

社員満足度調査

お客さまとの関わり

品質マネジメント

顧客満足度調査の実施

ステークホルダー・ダイアログ2008

取引先との関わり

ステークホルダー・メッセージ

社会との関わり

企業市民活動

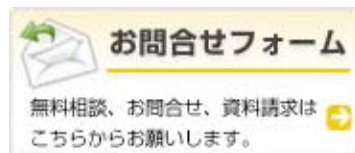
理念とビジョン

マネジメント

経済性報告

環境報告

GRI内容索引



尋ねると「消費者のニーズですから」と言われる。そんなことを消費者は、本当は望んでなんかいないと思いますよ。

豊田氏：でも店頭で他社の商品と一緒に並びますから。企業としては極めて自然な行動のような気がします。消費者がそう選ぶ限りは。

中村氏：それは対話が足りなかった、ということなのではないでしょうか。たとえばそういう商品は半額にしたら消費者だって買うかもしれませんし。企業だって商品を廃棄するのにもコストがかかるのですから。今、食品の表示の問題がいろいろ言われていますが、賞味期限が過ぎても、食べられるうちは食べようという考え方だって一方であるんです。だから消費者と企業がもっときちんと対話をすれば、いろいろなことがいい方向に向かう可能性は十分あるのではないかと私は思っています。



野村氏：私も企業と生活者が絶えず対立関係にあるという考え方には違和感を感じています。企業とは何か。企業といっても、実体としてそういうものがあるわけではなくて、結局人の集まりで、僕らも家に帰ったら生活者なのですね。我々一人ひとりが、企業、生活者の両方の目を持ってきちんと考えなければいけない時期に来ているのだと思います。

辰巳氏：プラス何が本当に豊かなのか、ということも、もっときちんと考えていく必要がありますね。

[1](#) | [2](#) | [3](#) | [4](#) | [次のページ>](#)

▲ [このページの先頭へ戻る](#)

[トップページ](#) | [CSR報告書サービス](#) | [CSRコンサルティングサービス](#) | [企業情報](#) | [Changing the Future](#) | [サステナビリティレポート](#) | [CSR推進サポーター](#) | [無料相談・お問合せ](#) | [アクセス](#) | [採用情報](#) | [サイトマップ](#)

Copyright Cre-en Inc,



クレアンは「CSR推進」と「CSR報告書企画制作」を一体で支援します

CSR報告書サービス

CSRコンサルティングサービス

取引先実績

企業情報

お問合せ

現在位置：[ホーム](#) > [サステナビリティレポート](#) > 【社会性報告】ステークホルダー・ダイアログ2008

■ ステークホルダー・ダイアログ2008

クレアンに期待すること

常に進化しなければいけない

野村氏：今までの議論を受けて、ではクレアンが企業に対して、社会に対して、どういうサービスを提供していくべきか。またその際、こういった視点を大切にすべきか、という話に移りたいと思います。

中村氏：CSRが進んでいると言われている企業でも、CSRの推進部署だけがCSR活動をやっているようなケースがあります。本来は全社員がCSRを考えて、一つひとつの企業活動にCSRの観点を入れていくことが必要なのなんです。どうすれば全社を巻き込み、意識の浸透を図れるのか、クレアンにはそういった提案、アドバイスの提供をお願いしたいと思っています。



豊田氏：そうですね。どうしたら企業が本腰を入れ、組織として動けるようになっていけるのか。サステナビリティの軸をどう設定して、それをどう企業活動に反映させていくのか。そこへの支援をしていただきたいと思います。ただしそれをする際に、企業の10歩先を示してはいけません。この企業は何を本気でやりたいのか。どこまでできるのか、そこをきちんと見極めて、1歩先か2歩先を示す。そこへ誘導してもらいたいと思っています。

辰巳氏：企業が頑張っているのは分かるのですが、私はまだまだ消費者が取り残されている気がしています。消費者が取り残されないようなやり方をクレアンとしてサポートしていただきたい。私は10歩先ぐらいを見ていてほしいと思いますよ。やはり遠いところを見て1歩1歩というのが大事だと思います。



中村氏：クレアンのクライアントはグローバルに企業活動を展開している企業が多いと思いますので、日本の中だけで通用するCSRではなく世界で通用するためのCSR、世界の各地域で何をしなければいけないかに対する的確なアドバイスをいただきたい。そのためには、海外のいろいろな組織と連携したり、社員を外に出したりするなど、もう少し投資をしてほしい。グローバル企業としてのCSRが求められてくる中で、そういうコンサルティングができる準備を今から始めていただきたいと思います。あとは、業界ごとのCSRを推し進める働きかけ。1つの会社でできるCSRなんて言ってみればたかが知れてるんですね。電子業界ではJEITAさんがサプライチェーンの行動指針を出していますがあのような取り組みが今後は必要だと思うのです。同一業界内での差別化のためのCSRはもうやめて、業界が抱えるマテリアルなCSR課題に業界全体としての取り組みにつながるような提言をお願いしたいと思っています。

サステナビリティレポート

社会性報告

社員との関わり

人が活きる制度づくり

社員満足度調査

お客さまとの関わり

顧客満足度調査の実施

ステークホルダー・ダイアログ2008

取引先との関わり

ステークホルダー・メッセージ

社会との関わり

企業市民活動

理念とビジョン

マネジメント

経済性報告

環境報告

GRI内容索引



お問合せフォーム

無料相談、お問合せ、資料請求はこちらからお願いします。



野村氏：CSRに関する経営コンサルティングは、今のままのクレアンには無理ではないかと思っています。われわれが最初にお世話になった4~5年前というのは、皆さんの持っている情報とかネットワークを企業は持っていないで、その価値がかなり高かったと思うんです。ただ、今のクレアンの価値が世間と比べてどうなのか。クライアントのCSR担当者が持っていない良質な情報やネットワークを持っているのか？ きちんと認識する必要があります。また、これまでのレポーティングの実績から、CSRマネジメントの手法に関してはいろいろな知見があると思うので、それらをもっと標準化し、安く、簡単にできるかたちにして、企業に提供していただきたいと思います。

水口氏：私の疑問はクレアンにとっての顧客とは誰なのかということです。お金を支払うのは確かに企業だとは思いますが……。でもクレアンのミッションは「サステナブルな社会をつくること」ですよね？ 本当の意味でのクレアンの顧客は「未来社会の住人」なのではないですか？ だったらやはりそこを原点に考えるべきではないでしょうか。たとえばCSR報告書を読んでいる人たちがどう感じているかという調査はされているのでしょうか。

辰巳氏：消費者のニーズをきちんと聞いて、ということですよ。

水口氏：クレアンは、サステナビリティレポートをつくることを含め企業を支援する。そうすることでサステナブルな社会をつくるのがミッションだと言っている。そうだとするとたとえばCSR報告書とかサステナビリティレポートができたことで、本当にサステナブルな社会に近づいているのか、それを検証しなければいけないのではないのでしょうか？ また単にレポートをつくるというのではなく、どんなレポートをめざすのか、そしてそれがどういうプロセスでつくられるのかが大事なはず。CSRレポートをつくるプロセス自体がその会社のいわば変革のプロセスとなるからです。だからCSRレポートの出来上がりがきれいなことよりも、どういうプロセスでつくるのか、そこをもっと頑張ってもらいたいと思っています。



辰巳氏：あとは、私たち消費者が商品を購入する場面で、あの企業がつくっているから大丈夫といって選択できるように、企業のこともきちんと評価できることにつながるようなレポートづくりであるとか、コンサルティングをやっていただきたいと思います。

中村氏：世の中を見れば、一般の市民とか、中小企業といったセクターのCSRに対する理解がまだまだ足りていないと思うのです。だからそういうところを啓発する事業というのを少し真面目に考えていただきたい。たとえば、商社というのは中小企業の集まりみたいなもので、当社も600社あまりのグループ会社を持ちながら連結経営をやっていて、グループマネジメントというのを本当にどうしようかといつも悩んでいる。数人しかいないような会社も含めて連結であって、グループ全体でCSRを推進する必要があります。そのようなことから、当社のニーズでもあるのですが、一般の中小企業でも使えるようなものを用意していただいて、それを広めていくといったようなことを考えてほしい。そうすると、世の中のCSR意識がぐっと底上げされるのではないかと思います。

水口氏：情報発信というか、つまりクレアンが言うのだったら仕方ないといってみんながやってくれるような会社になることを期待しますね。知見の力によって……。情報の作成、情報の創出によって、日本や世界がこうなって行くべきだという提言力があると、それ自体はすぐにお金にならなくても、いつか事業に必ずはね返ってきて、仕事自体もやりやすくなるのではないかと思います。

辰巳氏：あとは、情報のソースというか、そういうことをつなぐ役割というところでもクレアンの存在はすごく大きいと思う



んですね。大事なものがどこにあるのか、きちんと把握していて、的確に人をつなぐだとか、あるいは情報を提供するだとか。

水口氏：日本というのは世界に対するものづくりとしての発言力がすごくあったにもかかわらず、コンセプトとかアイデアとかの発信力が弱いじゃないですか。そこを日本社会全体としてもっと底上げしていく必要があるのかなと思います。

豊田氏：企業にいと日本企業の地盤沈下というものをかなり感じているので、そういった意味でクレアンには、企業における情報の発信力を高めていくところにもっと貢献していただきたいと思っています。そのためのいろいろな仕掛けを、チャレンジしてつくっていただきたいと思っています。



[1](#) | [2](#) | **3** | [4](#) | [次のページ>](#)

▲ [このページの先頭へ戻る](#)

[トップページ](#) | [CSR報告書サービス](#) | [CSRコンサルティングサービス](#) | [企業情報](#) | [Changing the Future](#) | [サステナビリティレポート](#) | [CSR推進サポーター](#) | [無料相談・お問合せ](#) | [アクセス](#) | [採用情報](#) | [サイトマップ](#) |

Copyright Cre-en Inc,



クレアンは「CSR推進」と「CSR報告書企画制作」を一体で支援します

CSR報告書サービス

CSRコンサルティングサービス

取引先実績

企業情報

お問合せ

現在位置：[ホーム](#) > [サステナビリティレポート](#) > 【社会性報告】ステークホルダー・ダイアログ2008

■ ステークホルダー・ダイアログ2008

クレアンに期待すること

ダイアログを終えて

野村氏：ありがとうございました。せっかくお集まりいただいていますので社員の方の意見もお聞きしたいと思います。

社員A：クレアンの中ではクレアンらしく「とんがれ」と言われます。多少無理な話であってもあるべき論を展開すべきと。それをお客様との間できちんと前向きに議論をしていくためには、お互いのいわゆる「信頼」というのがベースになると思っています。私たちが皆様から見て信頼に足るような資質を持っているのか、あるいはそういうことをするためには何が欠けているよみみたいなことを、貴重な機会なので教えていただければと思うのですが。



中村氏：まず信頼に足るかどうか。足るからこそ選んでいるのです。クレアンをパートナーとして選ぶ際に一番強く感じたのは、CSRで世の中を良くしていこうという強い意志。これなら自分たち企業にとって良いアドバイスをもらえると思いました。継続して仕事を依頼しているのもその期待に応えてくれたからです。

ただ世界はどんどん変わります。だから先んじて勉強していただきたい。特に私が一番注目しているところはグローバルCSRを進めるために何をすればいいのか。そこを強化してアドバイスをもらえたらと思っています。

野村氏：もちろん信頼はしていますが、たとえばレポートを納品した後のレビューのやり方。もっときちんとやれば、次の年の指名率ももっと高くなるのではないかと思います。やはり絶えずPDCAを回していないといけない。一生懸命やられているのはわかるのですが、それがきちんとアウトプットにつながっているのかということを経営視点で厳しく見る必要があるのではないかと思います。



豊田氏：あとは、法定開示なんかについて、もう少し皆さん勉強されたらいいのかなと思います。たとえば有価証券報告書をあまり読まれている感じはしないですし……。企業とつき合うに当たって、会社法や財務会計に関するある程度の知識を身につけたら、もっと仕事の歯車が回りやすくなるのではないかと思います。

水口氏：逆に私の方から皆さんに質問したいのですが。いろいろな会社とつき合われて、たとえばCSR報告書をつくるにしても、これは満足だ、いいものができたと思うときと、そうでないときがあるのかなと思ったりするのですが、そうなのですか？

つまり私は会計士でもあるのでいろいろな話を聞くのですが、たとえば会計士が保証をつける場合でさえ、基準の解釈などで会社側とぎりぎりの攻防をすることがあるようなのです。

サステナビリティレポート

社会性報告

社員との関わり

人が活きる制度づくり

社員満足度調査

お客さまとの関わり

品質マネジメント

顧客満足度調査の実施

ステークホルダー・ダイアログ2008

取引先との関わり

ステークホルダー・メッセージ

社会との関わり

企業市民活動

理念とビジョン

マネジメント

経済性報告

環境報告

GRI内容索引



お問合せフォーム

無料相談、お問合せ、資料請求はこちらからお願います。

今はクレアンがすごい会社だということはよく分かりましたし、変わった人がいっぱいいることもわかりました。これほめことばなんですよ。とてもいい会社だと思います。

以前はコンサルタントが報告書をつくると思ったら、見栄えのいいものをつくることをサポートしているのではないかと思っていました。今日ここに来る道々考えたのは、最近起きた、いわゆる古紙混入率の偽装のことです。これは、偽装だということがはっきり分かるのですね。今まで隠していたから見えなかったけれども、見つかったら偽装だったということが分かります。ところが世の中には明確に偽装とは言えないけれども変だということがあるのではないかと思うのですね。

CSR報告書というのはまさにそうで、別に偽装ということではないのだけれど、すごく頑張っていると言いながら、実は100ある問題のうちの10の部分だけ頑張っているとか。でもそれは嘘ではないし、報告書にもそう書いてある。でもなんか納得いかないという……。そういう見えない偽装というのでしょうか。もしそういう方向に進んでしまったら、社会全体としては逆効果になるかもしれません。もともと私が環境報告書やCSR報告書を推進したいと思ったのは、本当に頑張っている企業を社会やマーケットがきちんと評価するような仕組みが必要だということだったものですから。

社員B：水口先生への答えになるかどうかかわからないのですが、やはりたった1年で結果を、というのは実は難しくて……。今日来ていただいた豊田さん、中村さん、野村さんは長くお付き合いいただいている企業さんなのですが、たとえば1年目につくったレポートと、2年目、3年目とではやはり違うのですね。1年ごとの変化は小さいのですが、3年お付き合いいただくとその企業さんが変わったなというのは実感するし、担当者としてやはり嬉しくなります。そうすると、そこで満足度は上がります。私自身は、結構長くお付き合いいただいているクライアントさんが多いので、そういう意味で満足度は高いです。

ただたとえば広報出身の方がCSRに来られたりすると、いい面ばかりを見せようとする傾向があるので、ネガティブ情報があってもどうしても出さない、ということがあります。それを出すことでむしろ信頼度が上がりますよ、と説得をしても、やはりそこは出せない、というところでジレンマを感じることもあります。それできれいなレポートができて、他社の方から「いいですね」と言われると、ちょっと首をかしげることはあります。

野村氏：今のネガティブ情報という話でいうと、よく皆さんは出したほうがいいと言うのですが、企業の立場から見ると、そのネガティブ情報を出す理由について、納得いく説明をしてほしいのですよね。「GRIガイドラインにあるから」とか、根拠もなく「出した方が今は評価される」などといういい加減な理由ではなくて。

水口氏：ネガティブ情報だけが問題なのではないのですが、やはり本当にいい会社は本当によく見える。それなりの会社はそれなりに見える。そういう報告書になるべきだと思うのです。

変な質問をして申し訳ありませんでしたが、おっしゃるように、読み手の方もどう読んだらいいか分からないとか、非常に読み手が難しくなっているなど思うのですね。これは僕たちにとってもジレンマで、たくさん報告書を出してほしいし、情報もいっぱい書いてもらいたい。いい報告書をつくるためにはコンサルタントの力も必要だろうと思う一方で、報告書がいっぱい出てきたときに、やはり読めないというか分からなくて。当初の意図とは違って本当にいい企業ではなくて、グリーンウォッシュというか、見せ方のいい企業だけが高く評価されてしまうようなことになったら、かえって本末転倒になると。そこをどうしたらいいのかという感じを持っているのです。

ただ、ひとつ思うのは、会計士の世界でこんなことが言われるのですが、監査法人が「この会計手段は絶対まずいから、これだけは認められません」と突っ張ねると、最後はどうなるかという、監査法人を替えてしまうというのです。監査法人が交代したらあやしいということですね。なるほど、クレアンと長く付き合っていない会社はあやしいのかというのは



ちょっとした示唆になります。

辰巳氏：すごいですね、最後の締めとして。

藺田：本日は本当にどうもありがとうございました。皆様方から非常に貴重な意見をいただき、クレアンに寄せる期待だけではなく、皆様方が社会をどういうふうと考えていらっしゃるか、どういうふうにしていきたいのかということのを伺えて、私だけではなく、社員のみんなも非常に参考になったと思います。水口先生がおっしゃっていたレポートの読者は誰なのか、クレアンの顧客は誰なのかということも、認識した上で企業さんを支援しているつもりでしたけれど、改めてもう一度その部分はきちんと私たちも考えていかなければいけないなと思いました。

私自身、良い社会をつくりたいという想いからこの会社をスタートし、クレアンのミッションであるサステナブルな社会を実現するためには、今は企業がまず50社変わることが早道と考え、事業を展開してきました。なので、クレアンとして企業を変えていくというか、企業が変わるためのお手伝いをしていきたいということがあって、レポートをつくるプロセスを通じて、企業の方たちの価値観をもう少し市民側に寄せていくというか、そういう共有の価値観を持てるように、というようなところでやってきたのですが、いよいよ市民側にもっとシフトして行かなければいけないなというふうに感じています。

この5年間ほどは実はずっとそれを感じていて、クレアンの事業計画の中では、企業や社会に対して建設的にものを言える、そういうステークホルダーを育てていくことの事業化に取り組んでいるところです。企業と一緒に市民を巻き込んでいくという事業にしていきたいと考えておりますので、ぜひ、また皆様のお知恵もお借りできたらと思っています。いろいろなかたちで1歩でも2歩でもサステナビリティの世界に近づいていくように頑張っていきたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。本日は本当にどうもありがとうございました。

[1](#) | [2](#) | [3](#) | [4](#) | [ダイアログトップ](#)

[▲ このページの先頭へ戻る](#)

[トップページ](#) | [CSR報告書サービス](#) | [CSRコンサルティングサービス](#) | [企業情報](#) | [Changing the Future](#) | [サステナビリティレポート](#) | [CSR推進サポーター](#) | [無料相談・お問合せ](#) | [アクセス](#) | [採用情報](#) | [サイトマップ](#)

Copyright Cre-en Inc,



クレアンは「CSR推進」と「CSR報告書企画制作」を一体で支援します

CSR報告書サービス

CSRコンサルティングサービス

取引先実績

企業情報

お問合せ

現在位置：[ホーム](#) > [サステナビリティレポート](#) > 【社会性報告】取引先との関わり

取引先との関わり

取引先としてのビジネスパートナーは主に、デザイン会社、印刷会社、ライター、カメラマン、翻訳家の方々です。私たちがパートナーを選ぶ際に重視している点は、プロフェッショナルとしての仕事の質、クリエイティビティのレベルが一定水準以上であるということだけでなく、私たちの事業への理解、つまり、サステナブルな社会の実現という目標を共有して仕事をしていただけるかどうかということです。

ただし、こうした意識を必ずしも最初から求めているわけではありません。私たちとの仕事を通じて、徐々に考え方や取り組みが変わってきたというパートナーの方々も多数いらっしゃいます。お客さまだけでなく、パートナーの方々へもサステナビリティの考え方をご理解いただけるよう常にコミュニケーションを図っています。パートナーの皆様には、自分たちが関わっている仕事が最終的にどのような意味を持つのかをご理解いただき、やっている仕事に責任や誇り、喜びを感じていただきたいと考えています。そうして、お互いが多くの良い影響を与えられるような関係を私たちは望んでいます。そのような関係から生まれてくるものこそが、お客さまにとっても「本当に良いもの」になるのだと私たちは考えています。

これまでも良好な関係を築くために、日ごろからパートナーの方々の声に耳を傾けてきましたが、これまでその仕組みがシステムとしてきちんと確立されていなかったため、2004年12月から、ビジネスパートナーへアンケートの実施および、意見交換会の開催を始めました。これによりお互いの仕事の進め方を建設的に改善する仕組みが整い、率直な意見交換によって私たちも多くのことをパートナーから学んでいます。2009年度は、東京で11社、大阪で5社に対して意見交換会を実施しました。

[ステークホルダー・メッセージ](#)

[▲このページの先頭へ戻る](#)

サステナビリティレポート

社会性報告

社員との関わり

人が活きる職場環境づくり

社員満足度調査

お客さまとの関わり

顧客満足度調査の実施

ステークホルダー・ダイアログ2008

取引先との関わり

ステークホルダー・メッセージ

社会との関わり

企業市民活動

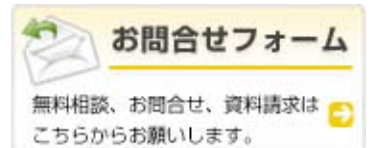
理念とビジョン

マネジメント

経済性報告

環境報告

GRI内容索引

[トップページ](#) | [CSR報告書サービス](#) | [CSRコンサルティングサービス](#) | [企業情報](#) | [Changing the Future](#) | [サステナビリティレポート](#) | [CSR推進サポーター](#) | [無料相談・お問合せ](#) | [アクセス](#) | [採用情報](#) | [サイトマップ](#)

Copyright Cre-en Inc,



クレアンは「CSR推進」と「CSR報告書企画制作」を一体で支援します

CSR報告書サービス

CSRコンサルティングサービス

企業情報

現在位置：[ホーム](#) > [サステナビリティレポート](#) > 【社会性報告】ステークホルダー・メッセージ

ステークホルダー・メッセージ

私たちの事業は多くのビジネスパートナーの方々に支えられています。普段報告書制作に関わってくださっているビジネスパートナーの方々からメッセージをいただきました。

クレアンのスタッフは、静かなる情熱を持っておられます。

その熱い思いは、人に伝染するようです。



株式会社エムツーフォト
太田 未来子さん

とある企業さんのワークショップで撮影を担当させてもらったときの事が印象的です。ワークショップに参加した企業の社員さんたちは、様々な部署に所属されておられます。決して、環境問題に詳しい方がばかりではなかったように思うのですが、「空気」という身近なテーマについて考え、2015年、世界はどうなっているかを予測しました。

その中で、クレアンのスタッフは裏方に徹しながら参加者を取りまとめ、沢山の意見を引き出されていました。参加者たちは知的好奇心をくすぐられたことでしょう。私も撮影しながら、このワークショップがどう発展していくのか、ワクワクしました。

このように、クレアンのスタッフは皆をまきこむパワーを持ってらっしゃいます。私も見習いたいと思いました。

▲ [このページの先頭へ戻る](#)

サステナビリティレポート

社会性報告

社員との関わり

人が活きる職場環境づくり

社員満足度調査

お客さまとの関わり

顧客満足度調査の実施

ステークホルダー・ダイアログ2008

[取引先との関わり](#)

ステークホルダー・メッセージ

社会との関わり

企業市民活動

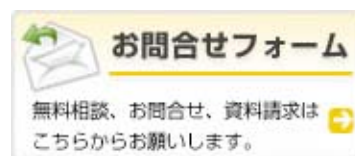
理念とビジョン

マネジメント

経済性報告

環境報告

GRI内容索引



より良い未来をめざす

ポジティブな姿勢に共感しています。



ライター 安田 知代

一緒にお仕事をさせていただくようになって今年で早7年目。地球環境問題への関心が高まり、改善に向けた取り組みが社会全体に広まってきた年月でした。

社会にも企業にもさまざまな問題があっても一筋縄では行かない現状でも、ポジティブなメッセージを発信しながらプラスの循環を生み出せる。そんな安田社長をはじめスタッフのみなさんの前向きで信念のある姿勢に共感します。その姿勢に刺激を受けつつ、私も背筋を正しながら併走してきたような気がします。

フリーランスで働く身として常々うれしく感じているのは、クリーンのスタッフが「パートナー」として対等な関係を築いてくれることです。段取りや原稿確認の一つひとつの過程にも細やかな配慮を感じます。対等な関係というのは当たり前そうできて、なかなか得難いものなのです。あえて少し気になることを言わせていただくなら、スタッフの方々からのメールの送信がかなり夜遅い時間のときがあることです。いろいろな事情からどうしても残業になるのは仕方ないとはいえ、十分に休息が取れているか老婆心ながら気がかりです。もちろん、スタッフのみなさんが多様な趣味をお持ちでプライベートも充実している様子を折々にうかがい、男性スタッフの長期育児休暇取得の話も聞き及んでいるので、トータルでは仕事と生活のバランスは取れていることと想像はしてはいるのですが.....。

これからも、みなさんの信念と、温かさと、忍耐強さで、ポジティブな力が世に広く伝播されていくことを希望しています。

▲ [このページの先頭へ戻る](#)

グローバル化に対応したレポート制作と一緒に



株式会社ダイナワード
桑野 大輔さん
鈴木 祥子さん
マイケル・シャワティーさん

クリーンの手がけるレポートは読みやすさを重視しており、魅力あふれる構成となっています。これは、幅広い業界のレポート制作における実績や、社員の皆様のサステナビリティ実現にける意気込みが反映された結果だと思っています。

私たちは翻訳会社として、レポートの英語版制作をサポートさせていただいております。パートナーを信頼してくださるクリーンの方針に大変やりがいを感じますが、同時に、英語版の制作には消極的な印象を受けることもあります。グローバル化が進む中、英語版レポートの重要性も確実に高まっていると思います。「レポート制作のプロフェッショナル」としての経験やノウハウを、日本語版と同様に英語版に対しても発揮していただき、より良いレポートづくりを一緒にしていければと思っています。

▲ [このページの先頭へ戻る](#)

企業にもっともっと刺激を！



株式会社スリーライト 企画編集室 マネージャー
染野 嘉夫さん

CSRレポートの編集・デザイン・印刷業務でのお付き合いさせていただいております。初めてお仕事をさせていただいてから数年経ちますが、CSRが広まるにつれて御社の役割も大きくなっているように感じます。当社でもお付き合いをきっかけにCSR活動を始めました。社内向けのCSRプレスの発行をはじめ、近



くの幼稚園、小学校に全版余剰紙の提供、不用な本や衣類のリサイクル、献血協力、盲導犬募金などを行い、今は御社の活動で話題の「マイ箸」の導入も検討中です。本当にできることから少しずつですが、実際の行動につなげていくのはとても難しいですね。多くの企業でもたくさんの課題を抱え悩みながら活動されているのでしょうか。でも、そこに御社の役割があると思います。企業がサステナブルな社会を実現するものであるために、常にいい刺激を与えてくれる存在でいてください。

▲ [このページの先頭へ戻る](#)

「環境に良いモノを選ぶ」をモットーに

北斗社 第一営業部 第1グループ

歌川 潤一さん

クレアンさんとは、2002年より環境報告書、およびCSRレポートの印刷／製本業務において、継続的なお付き合いをさせていただいております。

弊社におきましても、「環境のために印刷ができるコト」を考え、「COC認証の取得」「クリオネマークの取得」といった環境印刷への対応を行ってまいりました。最近では、自然エネルギーを利用した新しい試みとして、グリーン電力(風力)を活用した印刷にも取り組み、「エナジーグリーンマーク」による環境PRにも対応する事が可能となりました。これからも「環境に良いモノを選ぶ」をモットーに、素敵な社会の実現を目指して、クレアンさんとともに取り組んでいきたいと考えております。

▲ [このページの先頭へ戻る](#)

[トップページ](#) | [CSR報告書サービス](#) | [CSRコンサルティングサービス](#) | [企業情報](#) | [Changing the Future](#) | [サステナビリティレポート](#) | [CSR推進サポーター](#) | [無料相談・お問合せ](#) | [アクセス](#) | [採用情報](#) | [サイトマップ](#) |

Copyright Cre-en Inc,



クレアンは「CSR推進」と「CSR報告書企画制作」を一体で支援します

[CSR報告書サービス](#)[CSRコンサルティングサービス](#)[取引先実績](#)[企業情報](#)[お問合せ](#)現在位置：[ホーム](#) > [サステナビリティレポート](#) > 【社会性報告】社会との関わり

社会との関わり

クレアンの企業市民活動に関する理念と基本方針は「サステナブルな社会の実現のために必須の活動を行うこと。そして、資金や設備を提供するだけでなく共に智慧をしぼり、汗を流すこと」です。こうした観点から、いくつかのテーマに絞って企業市民活動を行っています。

「サステナビリティ日本フォーラム」や「社会的責任投資フォーラム（SIF-Japan）」などのNPO法人には、立ち上げ時より資金や設備、人的なサポートを行い、運営を支援しています。

今後はボランティア支援の制度を整えることで、社員やその家族が社会活動に参加しやすい環境も整えます。また、他企業の企業市民活動のサポートやNPO/NGOとのネットワーキングも行っていきます。

[企業市民活動](#)[▲ このページの先頭へ戻る](#)

サステナビリティレポート

社会性報告

社員との関わり

人が活きる職場環境づくり

社員満足度調査

お客さまとの関わり

顧客満足度調査の実施

ステークホルダー・ダイアログ2008

取引先との関わり

ステークホルダー・メッセージ

社会との関わり

企業市民活動

理念とビジョン

マネジメント

経済性報告

環境報告

GRI内容索引

**お問合せフォーム**

無料相談、お問合せ、資料請求はこちらからお願いします。

[トップページ](#) | [CSR報告書サービス](#) | [CSRコンサルティングサービス](#) | [企業情報](#) | [Changing the Future](#) | [サステナビリティレポート](#) | [CSR推進サポーター](#) | [無料相談・お問合せ](#) | [アクセス](#) | [採用情報](#) | [サイトマップ](#)

Copyright Cre-en Inc,



クレアンは「CSR推進」と「CSR報告書企画制作」を一体で支援します

[CSR報告書サービス](#)[CSRコンサルティングサービス](#)[取引先実績](#)[企業情報](#)[お問合せ](#)現在位置：[ホーム](#) > [サステナビリティレポート](#) > 【社会性報告】企業市民活動

企業市民活動

人材育成

当社では、職業体験の場を提供するとともに、CSRの現場を学びたい人に勉強の場を提供することを目的として、大学もしくは大学院に在学中の学生を対象にインターンを受け入れています。以前受け入れていた社会人も含めると、1995年より受け入れてきたインターンの数は156名に上ります。

機密保持の関係から、インターンにきた学生の方に実際のビジネスに関わる仕事してもらうことは難しいため、実際のビジネスにより近い現場で仕事の経験を実現させることがこれからの課題です。今後も、より学生にとって有意義な学びとなるよう、プログラムの改善を重ねていきます。

[▲このページの先頭へ戻る](#)

NPO/NGOsの支援

2009年度は以下の活動を行いました。

1. ビッグイシュー基金の「ひとり立ち応援会員」に寄付 2009年12月
2. 使用済切手をJOCS（日本キリスト教海外医療協力会）へ寄付 2009年12月
3. 使用済プリペイドカードをJOICFP（財団法人家族計画国際協力財団）へ寄付 2009年12月
4. 2010年カレンダーを寄付 2010年1月

その他、サステナビリティ日本フォーラム事務局および社会的責任投資フォーラム事務局に引き続き事務所を提供したほか、その2つの団体が開催するセミナーの運営や事務局運営に社員がボランティアで参加しています。

[▲このページの先頭へ戻る](#)

サステナビリティレポート

社会性報告

[社員との関わり](#)[人が活きる職場環境づくり](#)[社員満足度調査](#)[お客さまとの関わり](#)[顧客満足度調査の実施](#)[ステークホルダー・ダイアログ2008](#)[取引先との関わり](#)[ステークホルダー・メッセージ](#)[社会との関わり](#)

企業市民活動

[理念とビジョン](#)[マネジメント](#)[経済性報告](#)[環境報告](#)[GRI内容索引](#)

お問合せフォーム

無料相談、お問合せ、資料請求はこちらからお願いします。

[トップページ](#) | [CSR報告書サービス](#) | [CSRコンサルティングサービス](#) | [企業情報](#) | [Changing the Future](#) | [サステナビリティレポート](#) | [CSR推進サポーター](#) | [無料相談・お問合せ](#) | [アクセス](#) | [採用情報](#) | [サイトマップ](#)

Copyright Cre-en Inc,



クレアンは「CSR推進」と「CSR報告書企画制作」を一体で支援します

[CSR報告書サービス](#)[CSRコンサルティングサービス](#)[取引先実績](#)[企業情報](#)[お問合せ](#)現在位置：[ホーム](#) > [サステナビリティレポート](#) > 【環境報告】環境マネジメント

環境マネジメント

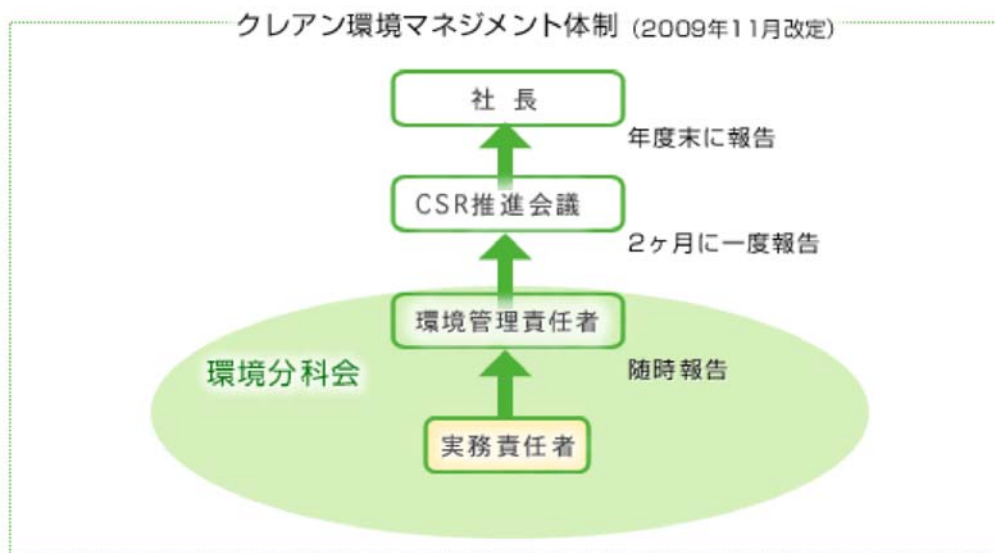
クレアンでは、独自に環境マネジメント体制を構築し、環境負荷低減に向けて地道な取り組みを続けています。

環境マネジメントについての考え方

クレアンでは、2005年にCSR委員会（現：CSR推進会議）、その下部組織として「環境分科会」を設置したことをきっかけに、環境マネジメントをどのように進めていくかに関して本格的に検討を開始しました。

当社は、ISO14001などの認証の取得や、外部監査を実施する計画は今のところありません。東京本社、大阪支店を合わせて総勢30余名の組織であることから、身の丈に合った実効性の高い独自のマネジメントの確立を目指しています。

具体的な取り組みとしては、「環境分科会」が中心となり、年度初めにその年の行動計画を立てて目標を設定し、その達成に向けて社員全員で活動を進めています。実務責任者と環境管理責任者（ともに環境分科会メンバー）が活動の進捗状況を取りまとめ、2ヶ月に1度のCSR推進会議にて報告を行います。年度末には実績を総括し、改善施策を検討したうえで、総責任者（代表取締役社長）に報告を行っています。

[▲このページの先頭へ戻る](#)

サステナビリティレポート

環境報告

環境マネジメント

CO2排出量の抑制

グリーン購入の推進

OA用紙使用量の削減

廃棄物の発生抑制

理念とビジョン

マネジメント

経済性報告

社会性報告

GRI内容索引



お問合せフォーム

無料相談、お問合せ、資料請求は
こちらからお願いします。

[トップページ](#) | [CSR報告書サービス](#) | [CSRコンサルティングサービス](#) | [企業情報](#) | [Changing the Future](#) | [サステナビリティレポート](#) | [CSR推進サポーター](#) | [無料相談・お問合せ](#) | [アクセス](#) | [採用情報](#) | [サイトマップ](#)

Copyright Cre-en Inc,



クレアンは「CSR推進」と「CSR報告書企画制作」を一体で支援します

CSR報告書サービス

CSRコンサルティングサービス

企業情報

現在位置：[ホーム](#) > [サステナビリティレポート](#) > 【環境報告】CO2排出量の抑制

CO2排出量の抑制

2009年度目標	電力使用量 一人あたり 2%削減（前年度比）
2009年度実績	一人あたり 12.3%増加（前年度比）
2010年度目標	一人あたり 10%削減（2005年度比）

クレアンでは地球温暖化防止のため、省エネルギー活動を進めることでCO2の排出量削減に取り組んでいます。

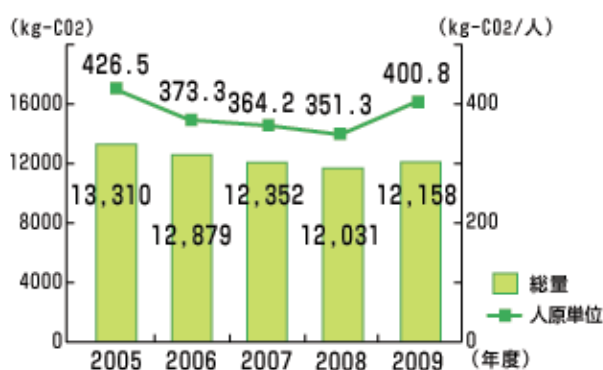
2009年度は、2008年度と比べ一人あたり12.3%の増加となりました。

中期目標である2005年度比では、一人あたり6%の削減となり、目標達成に向けた取り組みを進めます。今後は、さらに業務の効率化を図り、オフィスに滞在する総時間数を削減することで、さらなるエネルギー消費量およびCO2排出量を削減していきます。

CO2排出量の推移

対象期間：2009年2月～2010年1月

特記事項：経年で比較するため、排出係数：0.368を用いて過去のデータを再計算しています。（2005年度の数字を採用しています）



前年度比で総量は1.0%、一人あたりで12.3%増加
2005年度比で一人あたり6%減少

[▲ このページの先頭へ戻る](#)

[トップページ](#) | [CSR報告書サービス](#) | [CSRコンサルティングサービス](#) | [企業情報](#) | [Changing the Future](#) | [サステナビリティレポート](#) | [CSR推進サポーター](#) | [無料相談・お問合せ](#) | [アクセス](#) | [採用情報](#) | [サイトマップ](#)

Copyright Cre-en Inc,

サステナビリティレポート

環境報告

環境マネジメント

CO2排出量の抑制

グリーン購入の推進

OA用紙使用量の削減

廃棄物の発生抑制

理念とビジョン

マネジメント

経済性報告

社会性報告

GRI内容索引



お問合せフォーム

無料相談、お問合せ、資料請求は
こちらからお願いします。



クレアンは「CSR推進」と「CSR報告書企画制作」を一体で支援します

[CSR報告書サービス](#)[CSRコンサルティングサービス](#)[取引先実績](#)[企業情報](#)[お問合せ](#)現在位置：[ホーム](#) > [サステナビリティレポート](#) > 【環境報告】グリーン購入の推進

グリーン購入の推進

2009年度目標	グリーン購入・調達ガイドライン策定
2009年度実績	グリーン商品の購入範囲を広げ、金額ベースでも、品目でも拡大。 ガイドライン策定により、クレアンの実態に合ったグリーン購入に関する方針策定を討議
2010年度目標	グリーン購入ガイドラインの策定と数値目標の設定、目標達成

クレアンではグリーン購入を推進しています。

2009年度は、購買部門において、原則的に環境ラベル等のついた物品について購入することを推進しましたが、グリーン購入率が5%増加しました。

今後も引き続き、環境ラベル等のついた物品を選択購入することに加え、特に個人で備品を購入する際にも環境配慮製品を選択するよう、社内における意識の啓発に努めていきます。

グリーン購入率推移

対象期間：2009年2月～2010年1月

特記事項：金額ベースでの割合

[▲ このページの先頭へ戻る](#)[トップページ](#) | [CSR報告書サービス](#) | [CSRコンサルティングサービス](#) | [企業情報](#) | [Changing the Future](#) | [サステナビリティレポート](#) | [CSR推進サポーター](#) | [無料相談・お問合せ](#) | [アクセス](#) | [採用情報](#) | [サイトマップ](#)

Copyright Cre-en Inc,

サステナビリティレポート

環境報告

環境マネジメント

CO2排出量の抑制

グリーン購入の推進

OA用紙使用量の削減

廃棄物の発生抑制

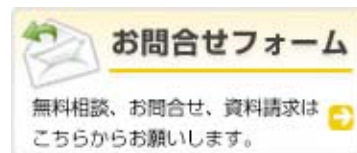
理念とビジョン

マネジメント

経済性報告

社会性報告

GRI内容索引





クレアンは「CSR推進」と「CSR報告書企画制作」を一体で支援します

CSR報告書サービス

CSRコンサルティングサービス

取引先実績

企業情報

お問合せ

現在位置：[ホーム](#) > [サステナビリティレポート](#) > 【環境報告】OA用紙使用量の削減

OA用紙使用量の削減

2009年度目標	現状の業務内容に対しOA用紙 一人あたり 2%削減（前年度比）
2009年度実績	一人あたり 13.2%増加（前年度比）
2010年度目標	一人あたり 2%削減（前年度比）

クレアンでは、生物多様性の観点から、森林資源保全を目的に、OA用紙使用量削減に取り組んでいます。

2009年度は、2008年度と比べ一人あたり13.2%増加し、目標である2%の削減を達成できませんでした。

中期目標に対しては2005年度比で一人あたり10.5%減少し、10%の削減目標を達成できました。

今後はこの状態をより改善し、継続・維持できるように社内において、すべての資料をプリントアウトせずに会議を行う方法などを検討することで、OA用紙使用量の削減に取り組んでいきます。

サステナビリティレポート

環境報告

環境マネジメント

CO2排出量の抑制

グリーン購入の推進

OA用紙使用量の削減

廃棄物の発生抑制

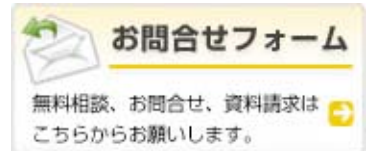
理念とビジョン

マネジメント

経済性報告

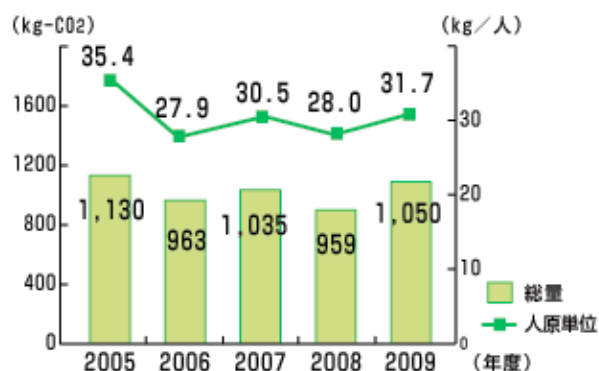
社会性報告

GRI内容索引



OA用紙使用量推移

対象期間：2009年2月～2010年1月



前年度比で総量は9.5%増加、一人あたりで13.2%増加
2005年度比で一人あたり10.5%減少

[▲ このページの先頭へ戻る](#)

[トップページ](#) | [CSR報告書サービス](#) | [CSRコンサルティングサービス](#) | [企業情報](#) | [Changing the Future](#) | [サステナビリティレポート](#) | [CSR推進サポーター](#) | [無料相談・お問合せ](#) | [アクセス](#) | [採用情報](#) | [サイトマップ](#)

Copyright Cre-en Inc,



クレアンは「CSR推進」と「CSR報告書企画制作」を一体で支援します

CSR報告書サービス

CSRコンサルティングサービス

取引先実績

企業情報

お問合せ

現在位置：[ホーム](#) > [サステナビリティレポート](#) > 【環境報告】 廃棄物の発生抑制

廃棄物の発生抑制

2009年度目標	ゴミ排出量 一人あたり 2%削減（前年度比）
2009年度実績	一人あたり 24.0%減少（前年度比）
2010年度目標	一人あたり 2%削減（前年度比）

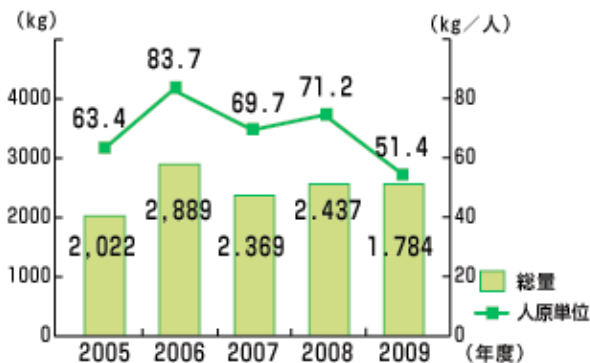
クレアンでは、ゴミの発生抑制に取り組んでいます。

2009年度と比べ一人あたり24.0%減少しました。さらに中期目標の基準年である2005年度比でも14.7%減少し、目標達成レベルの状態です。

2010年度も継続して、ゴミ発生抑制に努めていきます。

廃棄物発生量の推移

対象期間：2009年2月～2010年1月



前年度比で総量は26.8%、一人あたりで24.0%減少
2005年度比では一人あたり14.7%減少

[▲ このページの先頭へ戻る](#)

サステナビリティレポート

環境報告

環境マネジメント

CO2排出量の抑制

グリーン購入の推進

OA用紙使用量の削減

廃棄物の発生抑制

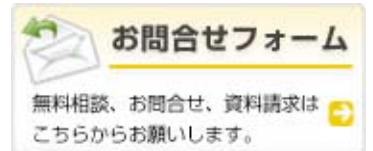
理念とビジョン

マネジメント

経済性報告

社会性報告

GRI内容索引



[トップページ](#) | [CSR報告書サービス](#) | [CSRコンサルティングサービス](#) | [企業情報](#) | [Changing the Future](#) | [サステナビリティレポート](#) | [CSR推進サポーター](#) | [無料相談・お問合せ](#) | [アクセス](#) | [採用情報](#) | [サイトマップ](#)

Copyright Cre-en Inc,



クレアンは「CSR推進」と「CSR報告書企画制作」を一体で支援します

CSR報告書サービス

CSRコンサルティングサービス

取引先実績

企業情報

お問合せ

現在位置：[ホーム](#) > [サステナビリティレポート](#) > GRI内容索引

GRI内容索引

該当なし	該当しないため掲載していない項目です。
—	2008年版には掲載していない項目です。

1 戦略および分析

項目	指標	記載ページ
1 戦略および分析		
1.1	組織にとっての持続可能性の適合性と、その戦略に関する組織の最高意思決定者（CEO、会長またはそれに相当する上級幹部）の声明	トップコミットメント
1.2	主要な影響、リスクおよび機会の説明	財務情報

▲ [このページの先頭へ戻る](#)

サステナビリティレポート

理念とビジョン

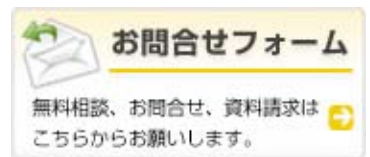
マネジメント

経済性報告

社会性報告

環境報告

GRI内容索引



2 組織のプロフィール

項目	指標	記載ページ
2 組織のプロフィール		
2.1	組織の名称	企業情報
2.2	主要なブランド、製品および／またはサービス	サービス
2.3	主要部署、事業会社、子会社および共同事業などの組織の経営構造	企業情報
2.4	組織の本社の所在地	企業情報
2.5	組織が事業展開している国の数および大規模な事業展開を行っている、あるいは報告書中に掲載されているサステナビリティの課題に特に関連のある国名	日本およびクライアント企業の事業展開地域
2.6	所有形態の性質および法的形式	企業情報
2.7	参入市場（地理的内訳、参入セクター、顧客／受益者の種類を含む）	—
2.8	以下の項目を含む報告組織の規模・従業員数 ・純売上高（民間組織について）あるいは純収入（公的組織について） ・負債および株主資本に区分した総資本（民間組織について） ・提供する製品またはサービスの量	企業情報
2.9	以下の項目を含む、規模、構造または所有形態に関して報告期間中に生じた大幅な変更 ・施設のオープン、閉鎖および拡張などを含む所在地または運営の変更 ・株主資本構造およびその資本形成における維持および変更業務（民間組織の場合）	該当なし

2.10		報告期間中の受賞歴	—
------	--	-----------	---

▲ [このページの先頭へ戻る](#)

3 報告要素

項目		指標	記載ページ
3 報告要素			
報告書のプロフィール			
3.1		提供する情報の報告期間（会計年度／暦年など）	2008年2月～2009年1月
3.2		前回の報告書発行日（該当する場合）	2008年8月
3.3		報告サイクル（年次、半年ごとなど）	年次
3.4		報告書またはその内容に関する質問の窓口	info@cre-en.jp
報告書のスコープおよびバウンダリー			
3.5		以下を含め、報告書の内容を確定するためのプロセス ・ 重要性の判断 ・ 報告書内のおよびテーマの優先順位付け ・ 組織が報告書の利用を期待するステークホルダーの特定	ステークホルダー・ダイアログ 2008 私たちをとりまくステークホルダー
3.6		報告書のバウンダリー（国、部署、子会社、リース施設、共同事業、サプライヤー（供給者）など）	株式会社クレアン 大阪本社 東京支店
3.7		報告書のスコープまたはバウンダリーに関する具体的な制限事項を明記する	該当なし
3.8		共同事業、子会社、リース施設、アウトソーシングしている業務および時系列でのおよび／または報告組織間の比較可能性に大幅な影響を与える可能性があるその他の事業体に関する報告の理由	該当なし
3.9		報告書内の指標およびその他の情報を編集するために適用された推計の基となる前提条件および技法を含む、データ測定技法および計算の基盤	—
3.10		以前の報告書で掲載済みである情報を再度記載することの効果の説明、およびそのような再記述を行う理由（合併／買収、基本となる年／期間、事業の性質、測定方法の変更など）	該当なし
3.11		報告書に適用されているスコープ、バウンダリーまたは測定方法における前回の報告期間からの大幅な変更	該当なし
GRI内容索引			
3.12		報告書内の標準開示の所在場所を示す表	GRI内容索引
保証			
3.13		報告書の外部保証添付に関する方針および現在の実務慣行。サステナビリティ報告書に添付された保証報告書内に記載がない場合は、外部保証の範囲および基盤を説明する。また、報告組織と保証の提供者との関係を説明する	—

▲ [このページの先頭へ戻る](#)

4 ガバナンス、コミットメントおよび参画

項目	指標	記載ページ
4 ガバナンス、コミットメントおよび参画		
ガバナンス		
4.1	戦略の設定または全組織的監督など、特別な業務を担当する最高統治機関の下にある委員会を含む統治構造（ガバナンスの構造）	—
4.2	最高統治機関の長が執行役員を兼ねているかどうかを示す（兼ねている場合は、組織の経営におけるその役割と、このような人事になっている理由も示す）	—
4.3	単一の理事会構造を有する組織の場合は、最高統治機関における社外メンバーおよび／または非執行メンバーの人数を明記する	—
4.4	株主および従業員が最高統治機関に対して提案または指示を提供するためのメカニズム	—
4.5	最高統治機関メンバー、上級管理職および執行役についての報酬（退任の取り決めを含む）と組織のパフォーマンス（社会的および環境的パフォーマンスを含む）との関係	—
4.6	最高統治機関が利害相反問題の回避を確保するために実施されているプロセス	—
4.7	経済的、環境的、社会的テーマに関する組織の戦略を導くための、最高統治機関のメンバーの適性および専門性を決定するためのプロセス	—
4.8	経済的、環境的、社会的パフォーマンス、さらにその実践状況に関して、組織内で開発したミッション（使命）およびバリュー（価値）についての声明、行動規範および原則	企業理念 行動規範
4.9	組織が経済的、環境的、社会的パフォーマンスを特定し、マネジメントしていることを最高統治機関が監督するためのプロセス。関連のあるリスクと機会および国際的に合意された基準、行動規範および原則への支持または遵守を含む	CSRマネジメント
4.10	最高統治機関のパフォーマンスを、特に経済的、環境的、社会的パフォーマンスという観点で評価するためのプロセス	—
外部のイニシアティブへのコミットメント		
4.11	組織が予防的アプローチまたは原則に取り組んでいるかどうか、およびその方法はどのようなものかについての説明	—
4.12	外部で開発された、経済的、環境的、社会的憲章、原則あるいは組織が同意または受諾するその他のイニシアティブ	グローバル・コンパクト
4.13	組織が以下の項目に該当するような、（企業団体などの）団体および／または国内外の提言機関における会員資格 ・統治機関内に役職を持っている ・プロジェクトまたは委員会に参加している ・通常の会員資格の義務を越える実質的な資金提供を行っている ・会員資格を戦略的なものとして捉えている"	—
ステークホルダー参画		
4.14	組織に参画したステークホルダー・グループのリスト	私たちをとりまくステークホルダー
4.15	参画してもらうステークホルダーの特定および選定の基準	私たちをとりまくステークホルダー
4.16	種類ごとのおよびステークホルダー・グループごとの参画の頻度など、ステークホルダー参画へのアプローチ	顧客満足度調査の実施 社員満足度調査 ステークホルダー・メッセージ
4.17	その報告を通じた場合も含め、ステークホルダー参画を通じ	ステークホル

て浮かび上がった主要なテーマおよび懸案事項と、それらに対して組織がどのように対応したか

[ダー・ダイアログ](#)
[2008](#)

▲ [このページの先頭へ戻る](#)

5 マネジメント・アプローチおよびパフォーマンス指標

項目		指標	記載ページ
5 マネジメント・アプローチおよびパフォーマンス指標			
経済			
		マネジメント・アプローチ	財務情報
側面：経済的パフォーマンス			
EC1	中核	収入、事業コスト、従業員の給与、寄付およびその他のコミュニティへの投資、内部留保および資本提供者や政府に対する支払いなど、創出および分配した直接的な経済的価値	—
EC2	中核	気候変動による組織の活動に対する財務上の影響およびその他のリスクと機会	—
EC3	中核	確定給付（福利厚生）制度の組織負担の範囲	—
EC4	中核	政府から受けた相当の財務的支援	該当なし
側面：市場での存在感			
EC5	追加	主要事業拠点について、現地の最低賃金と比較した標準的新入社員賃金の比率の幅	該当なし
EC6	中核	主要事業拠点での地元のサプライヤー（供給者）についての方針、業務慣行および支出の割合	該当なし
EC7	中核	現地採用の手順、主要事業拠点で現地のコミュニティから上級管理職となった従業員の割合	該当なし
側面：間接的な経済的影響			
EC8	中核	商業活動、現物支給、または無料奉仕を通じて、主に公共の利益のために提供されるインフラ投資およびサービスの展開図と影響	—
EC9	追加	影響の程度など、著しい間接的な経済的影響の把握と記述	—
環境			
		マネジメント・アプローチ	環境マネジメント
側面：原材料			
EN1	中核	使用原材料の重量または量	該当なし
EN2	中核	リサイクル由来の使用原材料の割合	該当なし
側面：エネルギー			
EN3	中核	一次エネルギー源ごとの直接的エネルギー消費量	CO2排出量の抑制
EN4	中核	一次エネルギー源ごとの間接的エネルギー消費量	—
EN5	追加	省エネルギーおよび効率改善によって節約されたエネルギー量	CO2排出量の抑制
EN6	追加	エネルギー効率の高いあるいは再生可能エネルギーに基づく製品およびサービスを提供するための率先取り組み、およびこれらの率先取り組みの成果としてのエネルギー必要量の削減量	該当なし
EN7	追加	間接的エネルギー消費量削減のための率先取り組みと達成された削減量	—
側面：水			
EN8	中核	水源からの総取水量	該当なし

EN9	追加	取水によって著しい影響を受ける水源	該当なし
EN10	追加	水のリサイクルおよび再利用量が総使用水量に占める割合	—
側面：生物多様性			
EN11	中核	保護地域内あるいはそれに隣接した場所および保護地域外で、生物多様性の価値が高い地域に所有、賃借、または管理している土地の所在地および面積	該当なし
EN12	中核	保護地域および保護地域外で、生物多様性の価値が高い地域での生物多様性に対する活動、製品およびサービスの著しい影響の説明	該当なし
EN13	追加	保護または復元されている生息地	該当なし
EN14	追加	生物多様性への影響をマネジメントするための戦略、現在の措置および今後の計画	該当なし
EN15	追加	事業によって影響を受ける地区内の生息地域に生息するIUCN（国際自然保護連合）のレッドリスト種（絶滅危惧種）および国の絶滅危惧種リストの数。絶滅危険性のレベルごとに分類する	該当なし
側面：排出物、廃水および廃棄物			
EN16	中核	重量で表記する直接および間接的な温室効果ガスの総排出量	CO2排出量の抑制
EN17	中核	重量で表記するその他の関連ある間接的な温室効果ガス排出量	該当なし
EN18	追加	温室効果ガス排出量削減のための率先取り組みと達成された削減量	CO2排出量の抑制
EN19	中核	重量で表記するオゾン層破壊物質の排出量	該当なし
EN20	中核	種類別および重量で表記するNOx、SOxおよびその他の著しい影響を及ぼす排気物質	該当なし
EN21	中核	水質および放出先ごとの総排水量	該当なし
EN22	中核	種類および廃棄方法ごとの廃棄物の総重量	廃棄物の発生抑制
EN23	中核	著しい影響を及ぼす漏出の総件数および漏出量	該当なし
EN24	追加	バーゼル条約付属文書1、2、3および8の下で有害とされる廃棄物の輸送、輸入、輸出、あるいは処理の重量、および国際輸送された廃棄物の割合	該当なし
EN25	追加	報告組織の排水および流出液により著しい影響を受ける水界の場所、それに関連する生息地の規模、保護状況、および生物多様性の価値を特定する	該当なし
側面：製品およびサービス			
EN26	中核	製品およびサービスの環境影響を緩和する率先取り組みと影響削減の程度	該当なし
EN27	中核	カテゴリー別の再生利用される販売製品およびその梱包材の割合	該当なし
側面：遵守			
EN28	中核	環境規制への違反に対する相当な罰金の金額および罰金以外の制裁措置の件数	該当なし
側面：輸送			
EN29	追加	組織の業務に使用される製品、その他物品、原材料の輸送および従業員の移動からもたらされる著しい環境影響	—
側面：総合			
EN30	追加	種類別の環境保護目的の総支出および投資	—
労働慣行とディーセント・ワーク（公正な労働条件）			
		マネジメント・アプローチ	社員との関わり
側面：雇用			

LA1	中核	雇用の種類、雇用契約および地域別の総労働力	—
LA2	中核	従業員の総離職数および離職率の年齢、性別および地域による内訳	人が活きる職場環境づくり
LA3	追加	主要な業務ごとの派遣社員またはアルバイト従業員には提供されないが、正社員には提供される福利	—
側面：労使関係			
LA4	中核	団体交渉協定の対象となる従業員の割合	—
LA5	中核	労働協約に定められているかどうかも含め、著しい業務変更に関する最低通知期間	—
側面：労働安全衛生			
LA6	追加	労働安全衛生プログラムについての監視および助言を行う、公式の労使合同安全衛生委員会の対象となる総従業員の割合	—
LA7	中核	地域別の、傷害、業務上疾病、損失日数、欠勤の割合および業務上の総死亡者数	—
LA8	中核	深刻な疾病に関して、労働者、その家族またはコミュニティのメンバーを支援するために設けられている、教育、研修、カウンセリング、予防および危機管理プログラム	—
LA9	追加	労働組合との正式合意に盛り込まれている安全衛生のテーマ	—
側面：研修および教育			
LA10	中核	従業員のカテゴリ別の、従業員あたりの年間平均研修時間	—
LA11	追加	従業員の継続的な雇用適性を支え、キャリアの終了計画を支援する技能管理および生涯学習のためのプログラム	人が活きる職場環境づくり
LA12	追加	定常的にパフォーマンスおよびキャリア開発のレビューを受けている従業員の割合	人が活きる職場環境づくり
側面：多様性と機会均等			
LA13	中核	性別、年齢、マイノリティグループおよびその他の多様性の指標に従った、統治体（経営管理職）の構成およびカテゴリ別の従業員の内訳	人が活きる職場環境づくり
LA14	中核	従業員のカテゴリ別の、基本給与の男女比	性別による給与の区別はありません
人権			
		マネジメント・アプローチ	—
側面：投資および調達への慣行			
HR1	中核	人権条項を含む、あるいは人権についての適正審査を受けた重大な投資協定の割合とその総数	該当なし
HR2	中核	人権に関する適正審査を受けた主なサプライヤー（供給者）および請負業者の割合と取られた措置	該当なし
HR3	追加	研修を受けた従業員の割合を含め、業務に関連する人権的側面に関わる方針および手順に関する従業員研修の総時間	—
側面：無差別			
HR4	中核	差別事例の総件数と取られた措置	該当なし
側面：結社の自由			
HR5	中核	結社の自由および団体交渉の権利行使が著しいリスクに曝されるかもしれないと判断された業務と、それらの権利を支援するための措置	該当なし
側面：児童労働			
HR6	中核	児童労働の事例に関して著しいリスクがあると判断された業務と、児童労働の防止に貢献するための対策	該当なし
側面：強制労働			
HR7	中核	強制労働の事例に関して著しいリスクがあると判断された業	該当なし

		務と、強制労働の防止に貢献するための対策	
側面：保安慣行			
HR8	追加	業務に関連する人権の側面に関する組織の方針もしくは手順の研修を受けた保安要員の割合	—
側面：先住民の権利			
HR9	追加	先住民の権利に関係する違反事例の総件数と取られた措置	該当なし
社会			
		マネジメント・アプローチ	社会との関わり
側面：コミュニティ			
SO1	中核	参入、事業展開および撤退を含む、コミュニティに対する事業の影響を評価し、管理するためのプログラムと実務慣行の性質、適用範囲および有効性	—
側面：不正行為			
SO2	中核	不正行為に関連するリスクの分析を行った事業単位の割合と総数	該当なし
SO3	中核	組織の不正行為対策の方針および手順に関する研修を受けた従業員の割合	—
SO4	中核	不正行為事例に対応して取られた措置	該当なし
側面：公共政策			
SO5	中核	公共政策の位置づけおよび公共政策開発への参加およびロビー活動	—
SO6	追加	政党、政治家および関連機関への国別の献金および現物での寄付の総額	—
側面：非競争的な行動			
SO7	追加	非競争的な行動、反トラストおよび独占的慣行に関する法的措置の事例の総件数とその結果	該当なし
側面：遵守			
SO8	中核	法規制の違反に対する相当の罰金の金額および罰金以外の制裁措置の件数	該当なし
製品責任			
		マネジメント・アプローチ	お客様との関わり
側面：顧客の安全衛生			
PR1	中核	製品およびサービスの安全衛生の影響について、改善のために評価が行われているライフサイクルのステージ、ならびにそのような手順の対象となる主要な製品およびサービスのカテゴリーの割合	—
PR2	追加	製品およびサービスの安全衛生の影響に関する規制および自主規範に対する違反の件数を結果別に記載	該当なし
側面：製品およびサービスのラベリング			
PR3	中核	各種手順により必要とされている製品およびサービス情報の種類と、このような情報要件の対象となる主要な製品およびサービスの割合	該当なし
PR4	追加	製品およびサービスの情報、ならびにラベリングに関する規制および自主規範に対する違反の件数を結果別に記載	該当なし
PR5	追加	顧客満足度を測る調査結果を含む、顧客満足に関する実務慣行	顧客満足度調査
側面：マーケティング・コミュニケーション			
PR6	中核	広告、宣伝および支援行為を含むマーケティング・コミュニケーションに関する法律、基準および自主規範の遵守のためのプログラム	—

PR7	追加	広告、宣伝および支援行為を含むマーケティング・コミュニケーションに関する規制および自主規範に対する違反の件数を結果別に記載	該当なし
側面：顧客のプライバシー			
PR8	追加	顧客のプライバシー侵害および顧客データの紛失に関する正当な根拠のあるクレームの総件数	該当なし
側面：遵守			
PR9	中核	製品およびサービスの提供、および使用に関する法規の違反に対する相当の罰金の金額	該当なし
▲ このページの先頭へ戻る			